

手賀沼デジタル教材

おかぼっと いちぶ やつ しゃしんしゅう
岡発戸・都部谷津のチョウ写真集

2000年～2022年の観察記録



2013/04/16

岡発戸・都部の谷津を愛する会



2019/04/22

岡発戸・都部の谷津のご案内

◆場所：成田線、東我孫子駅から東に歩き、約10分で谷津へ。

◆広さ：36.7ha、東京ドーム約7.8個分の広さ。

◆地形：中央部には小川があり、手賀沼に流れている。

谷津を歩くと西側はゴルフ場で中央学院高校へ。

東側の斜面林をを登ると成田線の線路にぶつかる。

◆稲作：谷津の昔は多くの稲作たんぼが広がっていた。





現在も中心部より南側には田んぼがあり秋には黄金色に。

◆生物：春…多くのカエルが生まれ、夏…ヘイケボタルが舞い、

秋…黄金色に実った稲の上を赤とんぼが飛び回る。

谷津はこんなところです。

本写真集の見方

- 掲載した写真は、5つの科に分け、科ごとに50音順（4ページ）に種名を並べました。
全種50音順は5ページに掲載しました。
- 掲載したい写真を見たい場合は、目次（検索）の種名をクリックするとその種に飛ぶようになっています。
- 目次（検索）に戻りたい場合は、表示されているページの  をクリックすると目次に戻ります。
- 次のページに進みたい場合は、表示されているページの  クリックすると次のページに進みます。
- 前のページに戻りたい場合は、表示されているページの  をクリックすると前のページに戻ります。
-  キーを **クリック** と最初の画面に戻ります。
- 掲載した写真は著作権フリーですのでスクリーンショットでご自由にお使い下さい。

科番号	科名	種番号	種名	大きさ	生息環境場所
D	タテハチョウ科	D21	ヒメアカタテハ	中型	越冬形態:幼虫
やつ	どあ	ふつう	せいそくかんきょう	へいち	こうえん
谷津にあらわれる度合い	普通		生息環境:草原、公園、人家周辺、平地など明るい場所。		
			ヨモギ、カラムシ(イラクサ科)、タンポポなどに訪れる。		



写真:田島友昭

生態写真♂（おす）



写真:田島友昭

生態写真♀（めす）



最初 目次へ 次へ 前へ 最後へ

はじめに

「岡発戸」地名の読み方：地元では「おかぼっと」「おかほっと」の読み方があり昔の人は「おかぼっと」と読み、若い人は「おかほっと」と読んでいる。
現在、正式には「おかほっと」であるが、岡発戸・都部を愛する会は、「おかぼっと」の読み方を採用している。

おかぼっと いちぶ やっ しゅるいすう 岡発戸・都部の谷津のチョウの種類数

おかぼっと いちぶ やっ あらわ しゅるい しゅ
・岡発戸・都部の谷津に現れたチョウの種類は61種

にっぽんぜんたい しゅ やく あ
で日本全体(279種)の約21%に当たります。

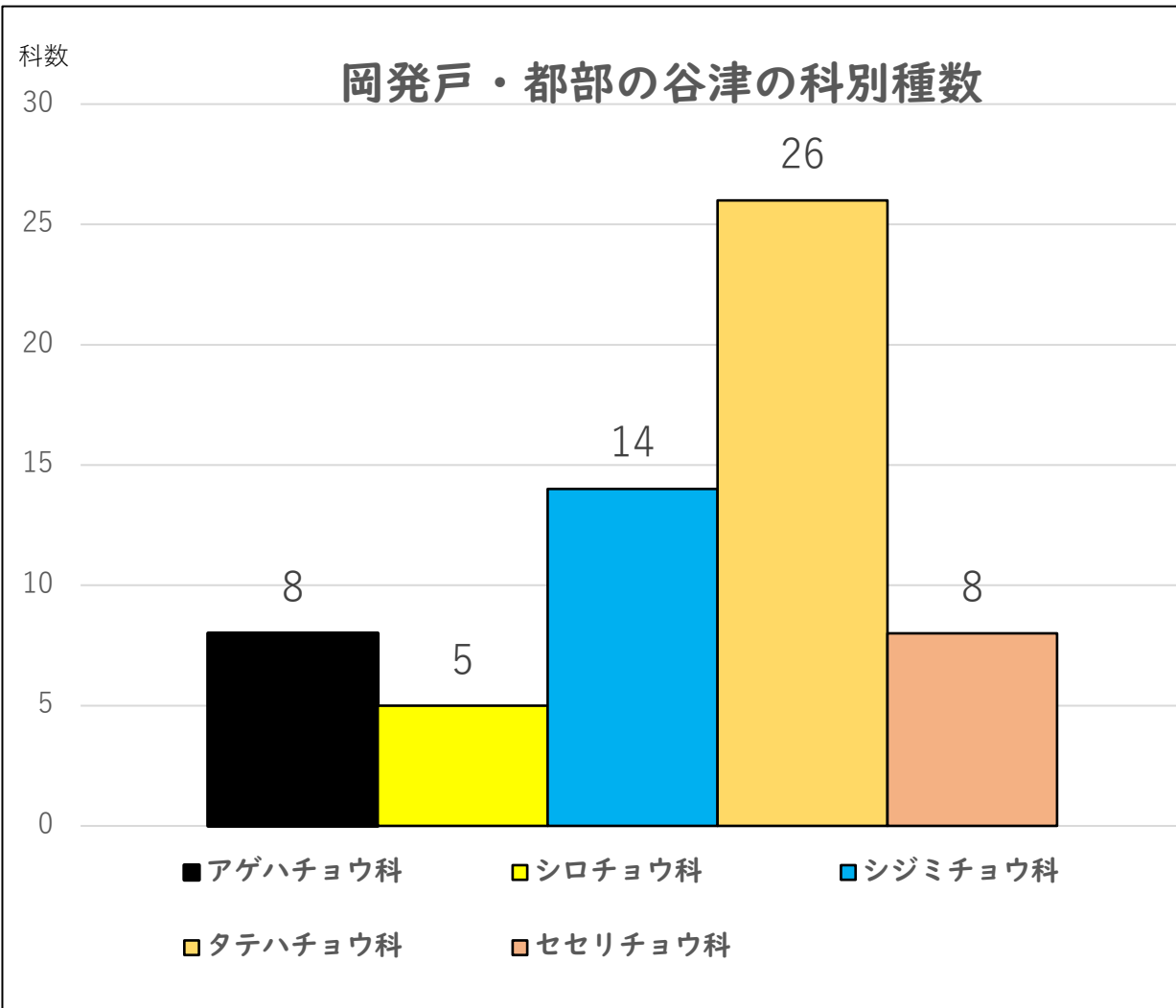
か べつ か しゅ か しゅ
・科別には、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科5種、

か しゅ か しゅ
シジミチョウ科14種、タテハチョウ科26種、セセリ

か しゅ おかぼっと いちぶ やっ
チョウ科8種で、岡発戸・都部の谷津ではタテハチ

か もっと おお あらわ か
ョウ科が最も多く現れた科でした。

※上記の279種は迷チョウを含みます。一般的には263種とされています。



データ：岡発戸都部の谷津を愛する会

チョウの生態（完全変態）

- どんな場所で産卵するか？

食草の葉：裏・表

食草の樹の枝、幹の割れ目

- チョウの年齢：

1 齢とは4～6日間

- 一年間の発生：

1 回～5 回、多い場合は7 回も。

- チョウの食事：

花の蜜、樹液、獣死体

- 産卵～孵化までの期間：

約1 週間（種によって異なる）

- 産卵個数：

一ヶ所でチョウによって、1 個～10 個

- 産卵後のチョウの寿命：

産卵して子孫を残すと約1 週間の命である

- 冬をすごす方法（越冬形態）：

種によってすごし方が違います。
成虫・卵・幼虫・サナギと色々です。

目次(検索 科別50音順)

種名		種名		種名		種名	
A	アゲハチョウ科	C3	ウラゴマダラシジミ	D6	ウラギンヒョウモン	D24	ミドリヒョウモン
A1	アオスジアゲハ	C4	ウラナミシジミ	D7	オオウラギンスジヒョウモン	D25	メスグロヒョウモン
A2	カラスアゲハ	C5	オオミドリシジミ	D8	キタテハ	D26	ルリタテハ
A3	キアゲハ	C6	ゴイシシジミ	D9	クロコノマチョウ	E	セセリチョウ科
A4	クロアゲハ	C7	ツバメシジミ	D10	クロヒカゲ	E1	イチモンジセセリ
A5	ジャコウアゲハ	C8	ベニシジミ	D11	コジャノメ	E2	オオチャバネセセリ
A6	ナガサキアゲハ	C9	ミズイロオナガシジミ	D12	ゴマダラチョウ	E3	キマダラセセリ
A7	ナミアゲハ	C10	ミドリシジミ	D13	コムスジ	E4	ギンイチモンジセセリ
A8	モンキアゲハ	C11	ムラサキシジミ	D14	コムラサキ	E5	コチャバネセセリ
B	シロチョウ科	C12	ムラサキツバメ	D15	サトキマダラヒカゲ	E6	ダイミョウセセリ
B1	キタキチョウ	C13	ヤマトシジミ	D16	ジャノメチョウ	E7	チャバネセセリ
B2	スジグロシロチョウ	C14	ルリシジミ	D17	ツマグロヒョウモン	E8	ミヤマチャバネセセリ
B3	ツマキチョウ	D	タテハチョウ科	D18	テングチョウ	岡発戸都部谷津のチョウ アゲハチョウ 8種 シロチョウ 5種 シジミチョウ 14種 タテハチョウ 26種 セセリチョウ 8種 合計 61種	
B4	モンキチョウ	D1	アオタテハモドキ	D19	ヒオドシチョウ		
B5	モンシロチョウ	D2	アカタテハ	D20	ヒカゲチョウ		
C	シジミチョウ科	D3	アカボシゴマダラ	D21	ヒメアカタテハ		
C1	アカシジミ	D4	アサギマダラ	D22	ヒメウラナミジャノメ		
C2	ウラギンシジミ	D5	イチモンジチョウ	D23	ヒメジャノメ		

データ：岡発戸都部の谷津を愛する会 田島友昭



最初へ



次へ



前へ



最後へ

検索 50音順

	種名	番号	ページ		種名	番号	ページ		種名	番号	ページ
【ア】	アオスジアゲハ	A1	14	【カ】	クロアゲハ	A4	17	【ハ】	ヒオドシチョウ	D19	59
	アオタテハモドキ	D1	41		クロコノマチョウ	D9	49		ヒカゲチョウ	D20	60
	アカシジミ	C1	27		クロヒカゲ	D10	50		ヒメアカタテハ	D21	61
	アカタテハ	D2	42		ゴイシシジミ	C6	32		ヒメウラナミジャノメ	D22	62
	アカボシゴマダラ	D3	43		コジャノメ	D11	51		ヒメジャノメ	D23	63
	アサギマダラ	D4	44		コチャバネセセリ	E5	71		ベニシジミ	C8	34
	イチモンジセセリ	E1	67		ゴマダラチョウ	D12	52	【マ】	ミズイロオナガシジミ	C9	35
	イチモンジチョウ	D5	45		コムスジ	D13	53		ミドリシジミ	C10	36
	ウラギンシジミ	C2	28		コムラサキ	D14	54		ミドリヒョウモン	D24	64
	ウラギンヒョウモン	D6	46	【サ】	サトキマダラヒカゲ	D15	55		ミヤマチャバネセセリ	E8	74
	ウラゴマダラシジミ	C3	29		ジャコウアゲハ	A5	18		ムラサキシジミ	C11	37
	ウラナミシジミ	C4	30		ジャノメチョウ	D16	56		ムラサキツバメ	C12	38
	オオウラギンスジヒョウモン	D7	47		スジグロシロチョウ	B2	23		メスグロヒョウモン	D25	65
	オオチャバネセセリ	E2	68	【タ】	ダイミョウセセリ	E6	72		モンキアゲハ	A8	21
	オオミドリシジミ	C5	31		チャバネセセリ	E7	73		モンキチョウ	B4	25
【カ】	カラスアゲハ	A2	15		ツバメシジミ	C7	33	【ラ】	モンシロチョウ	B5	26
	キアゲハ	A3	16		ツマキチョウ	B3	24		ヤマトシジミ	C13	39
	キタキチョウ	B1	22		ツマグロヒョウモン	D17	57		ルリシジミ	C14	40
	キタテハ	D8	48		テングチョウ	D18	58		ルリタテハ	D26	66
	キマダラセセリ	E3	69	【ナ】	ナガサキアゲハ	A6	19				
	ギンイチモンジセセリ	E4	70		ナミアゲハ	A7	20				



最初へ



目次へ



次へ



前へ



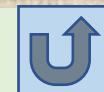
最後へ

日本のチョウの仲間（分類）

- 日本のチョウのなかまは、5科279種。
岡発戸・都部の谷津では毎年約50種が観察されます。
アゲハチョウ科・・・一番大きいチョウ
シロチョウ科・・・中型のチョウ、白や黄色がベース
シジミチョウ科・・・小型、チョウの中で最も多い種
タテハチョウ科・・・中型～大型、翅は鮮やかな色
セセリチョウ科・・・小型で地色は茶褐色、表裏とも白色の斑紋
があるものが多い。



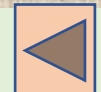
最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

アゲハチョウ科の特徴説明

分類: チョウ目 アゲハチョウ
上科 シロチョウ科



ナミアゲハ

- チョウの中では最も大型の分類群である。
- 成虫は大きな翅をもつが、中にはアオスジアゲハのようにわりと小さな翅をもち速く飛びまわるものもいる。
- 翅の鱗粉は種類によって黒・白・赤・黄・青・緑など様々に彩られている。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

シロチョウ科の特徴説明

分類:チョウ目アゲハチョウ
上科シロチョウ科



モンシロチョウ

- 成虫の前翅長は2-6cm程度で、チョウ全体で見ると中型のグループである。成虫の翅は突起がないか、または少ない。
- 翅の色は白や黄色がベースで、その上に黒や赤の模様が見られる。
- 成虫は翅を閉じて止まる。花にやって来て蜜を吸うが、地面に降り立って水分を吸う習性があるものも多い。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

シジミチョウ科の特徴説明

分類:チョウ目アゲハチョウ
上科シジミチョウ科



ミドリシジミ

- 形態は多様であり、形態的特徴から厳密に定義づけるのはむずかしいとされている。
- 一般に成虫は小型で、幼虫はワラジムシ型の種が多い。
- アリと関係の深い分類群としても知られている。
- およそ全世界で 5200種が知られる。チョウの中で最も多い種。
- 南極大陸以外のすべての大陸、いくつかの海洋島に分布する。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

タテハチョウ科の特徴説明

分類: チョウ目 アゲハチョウ
上科 タテハチョウ科



キタテハ

- 成虫の前翅長はどれも2cm以上で、チョウとしては中型から大型の部類に入る。
- 成虫の翅は亜科によって様々な形があり、黄・赤・青・黒・褐色など鮮やかな模様が入る。
- 成虫は種類によってはもっぱら花に飛来するが、花よりも過熟して落果、発酵しかけた果実の果汁、樹液、動物の糞や死体などの浸出液を好む種も多い。



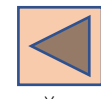
最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

セセリチョウ科の特徴説明

分類: チョウ目セセリチョウ上
科セセリチョウ科



イチモンジセセリ

- セセリチョウは小型から中型の蝶
- 体が太く短く（翅の大きさから比べると、頭が大きい）、翅も小さい事が多いため、他の蝶と比べると「蝶らしさ」があまり無いグループ。
- すばやく飛び回り、網で捕らえると激しく羽ばたくのでうまく扱わないと、鱗粉（りんぷん）が剥げ落ちてしまう。
- 地味な種類が多く、似ている種類も非常に多い。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A I アオスジアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ
谷津にあらわれる度合い
どあ
多い
おお

せいそくかんきょう へいち おか
生息環境:平地~丘



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A2 カラスアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ ど あ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

せいそくかんきょう しんりん こうえん へいち しんりん けいりゅうぞ
生息環境:森林～公園、平地～森林の溪流沿い。



写真:田島友昭



写真:吉田隆行



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A3 キアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう こうえん しんりん へいち ていさんち
生息環境:公園、森林、平地～低山地。

やつ ない かしょくぶつ おお はんも ところ
谷津内ではセリ科植物が多く繁茂している所



写真:田島友昭



写真:池田日出男



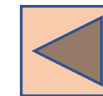
最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

やつ 谷津にあらわれる度合い
どあ 少ない
すく

A4 クロアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

せいそくかんきょう しんりん こうえん じんか へいち ていさんち しんりん
生息環境:森林、公園、人家、平地～低山地の森林など。

写真:田島友昭

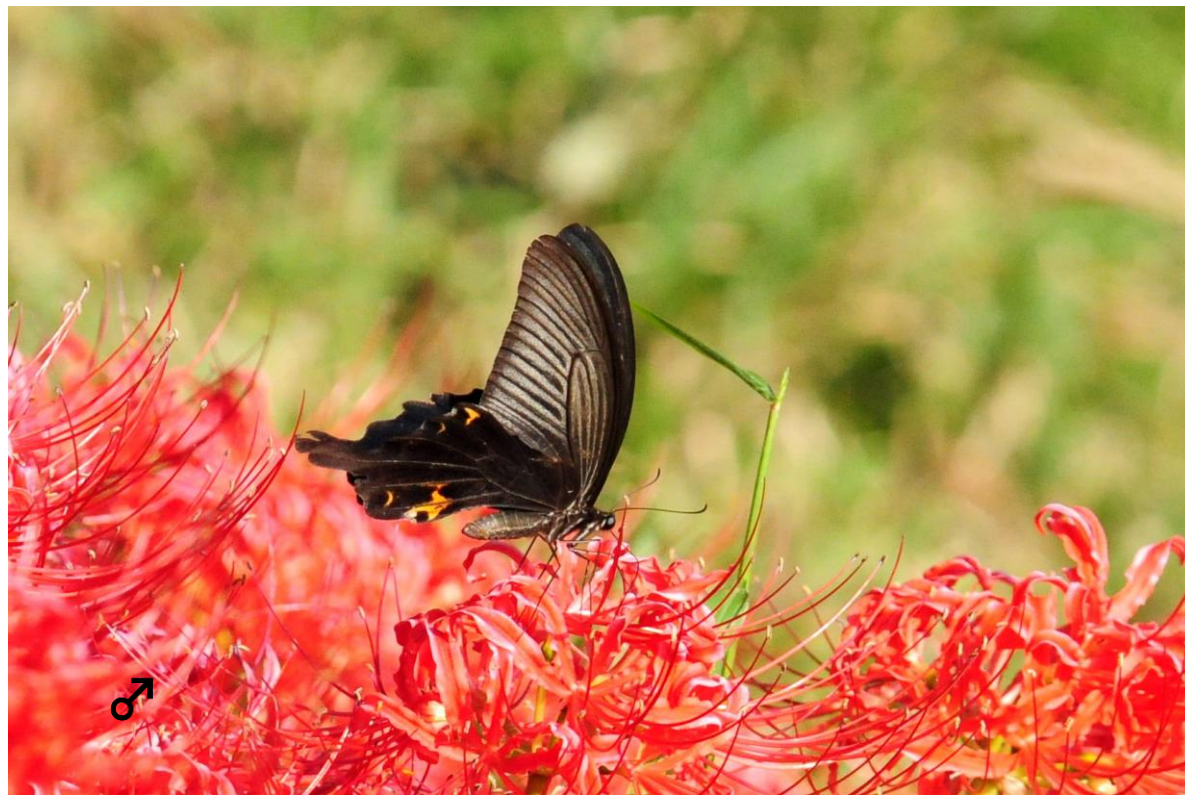


写真:池田日出男

写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い



写真:田島友昭



写真:田島友昭

A5 ジャコウアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

せいそくかんきょう しんりん そうげん あれち へいち さんち

生息環境:森林～草原、荒地、平地～山地。

は ばしよ さんらんしよくぶつ
ウマノスズクサが生える場所、産卵植物。



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A6 ナガサキアゲハ

おおがた
大型えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう へいち きゅうりょうち さいばいち おお
生息環境:平地～丘陵地のミカンの栽培地に多い。



写真:田島友昭



きゅうしゅう しこく ぶんぶ
九州や四国で分布
おんだんか
していたが、温暖化
ちばけん み
で千葉県でも見られる

写真:田島友昭

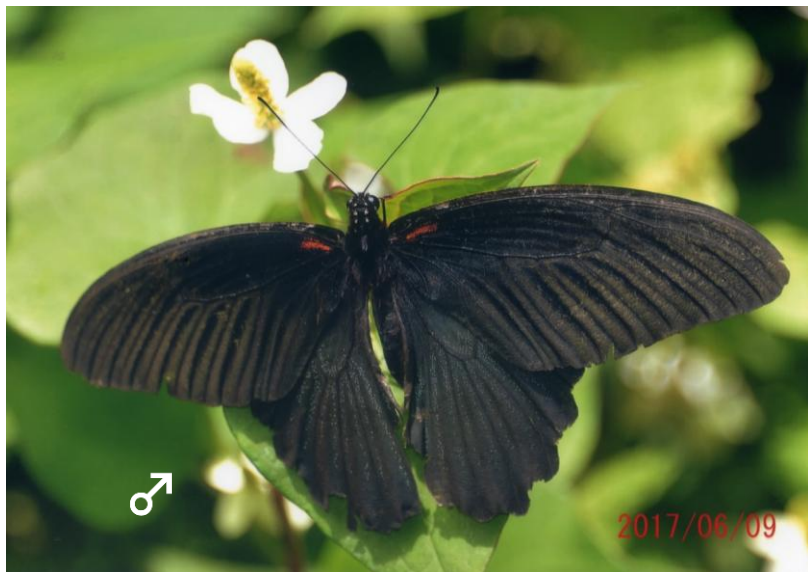


写真:田島友昭

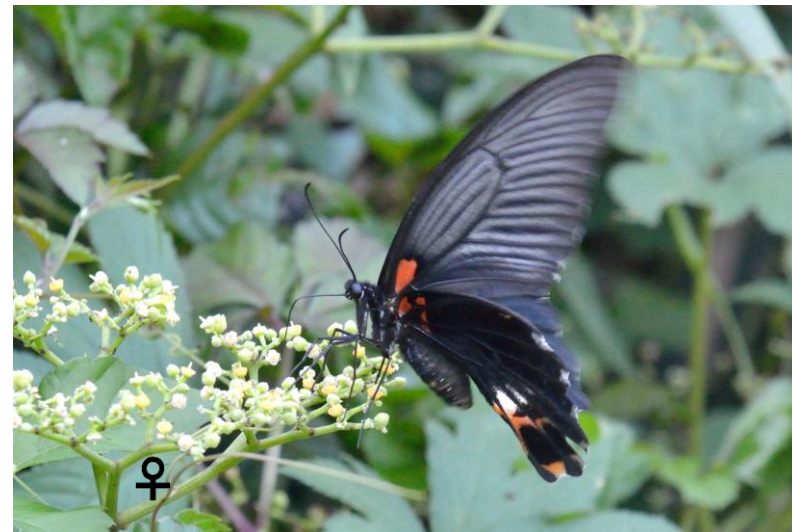


写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A7 ナミアゲハ

おおがた
大型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう へいち ていさんち とく るい ばしよ
生息環境:平地～低山地、特にミカン類がある場所。

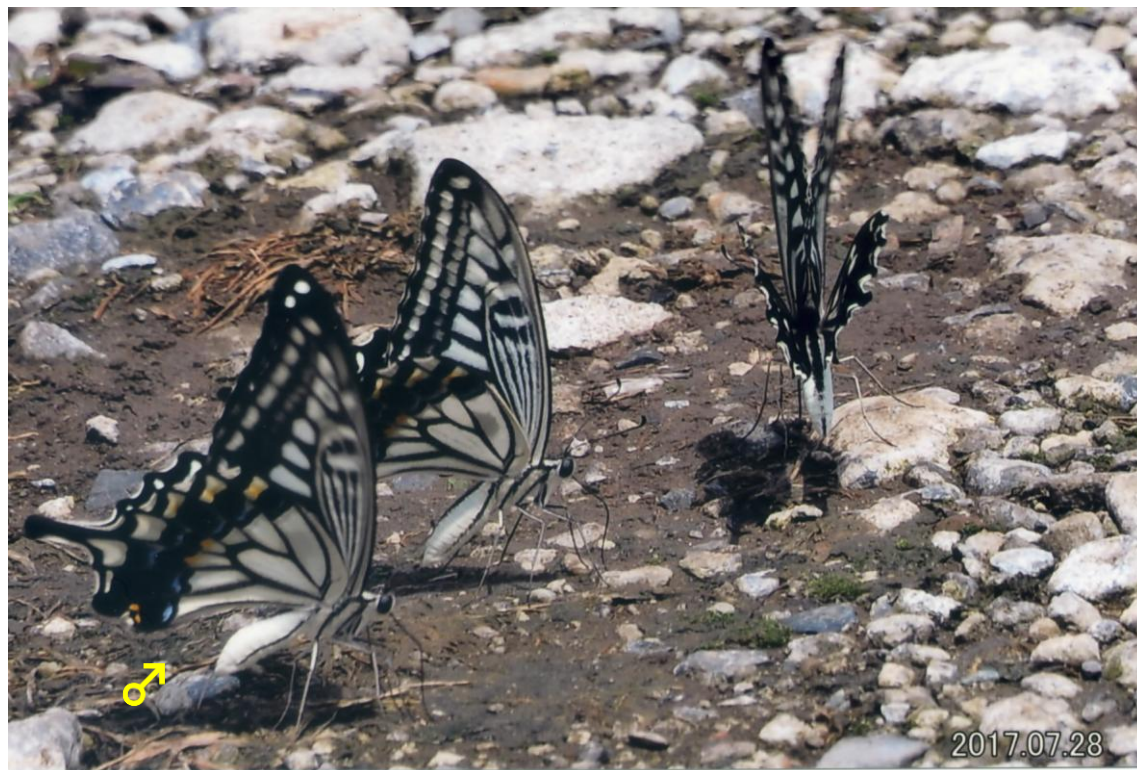


写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

A

アゲハチョウ科

A8 モンキアゲハ

おおがた
大型えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

せいそくかんきょう しんりん こうえん へいち きゅうりょうち るい さいばい ばしよ
生息環境:森林、公園、平地～丘陵地のミカン類が栽培されている場所。



写真:田島友昭



写真:田島友昭

参考資料
参照ボタン

さいご さんこうしりょう せつめい
最後のページの参考資料に説明があります。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

B

シロチョウ科

B I キタキチョウ

こがた
小型

えっとう けいたい せいちょう
越冬形態:成虫

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう へいち くさち はばびろ こうえん おお
生息環境:平地、草地など幅広い。公園なども多い



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

B

シロチョウ科

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

B2 スジグロシロチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

せいそくかんきょう へいち こうえん かせん へいち ていさんち とし こうえん
生息環境:林地、公園、河川、平地から低山地。都市公園、
あれち
荒地でもみられる



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

B3 ツマキチョウ

こがた
小型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

せいそくかんきょう りんえん のうち こうえん へいち ていさんち
生息環境:林縁、農地、公園、平地から低山地。

はる ようせい はるさ はな さ なつまえ か しょくぶつ あら はるいちばん
春の妖精。春先に花を咲かせ夏前に枯れる植物に現れる。春一番にみられることから。



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やっ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう そうげん のうち かせん へいち くさち おお はっせい
生息環境:草原、農地、河川、平地の草地に多く発生。



写真:田島友昭



写真:田島友昭

B	シロチョウ科
---	--------

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

B5 モンシロチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

せいそくかんきょう へいち ふつう

生息環境:平地で普通にみられるチョウ。

はたけ おお はっせい

キャベツやブロッコリーなどの畑で多く発生。



2016/03/16

写真:田島友昭



2013/04/15

写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

CⅠ アカシジミ

こがた よう ほ ご しゅ
小型 要保護種Cランク

えっとう けいたい たまご
越冬形態:卵

せいそくかんきょう しんりん らくようじゅりん はっせい
生息環境:森林、落葉樹林で発生。コナラ、クヌギ、カシ類、ブナ科。



写真:田島友昭



写真:田島友昭

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

C2 ウラギンシジミ

こがた
小型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

せいそくかんきょう しんりん そうげん へいち ていさんち しょくそう はっせいげん
生息環境:森林、草原、平地～低山地。クズが食草で発生源。
また しょくさい じんか
又、フジの植栽された人家などでもみられる。



写真:田島友昭

写真:田島友昭

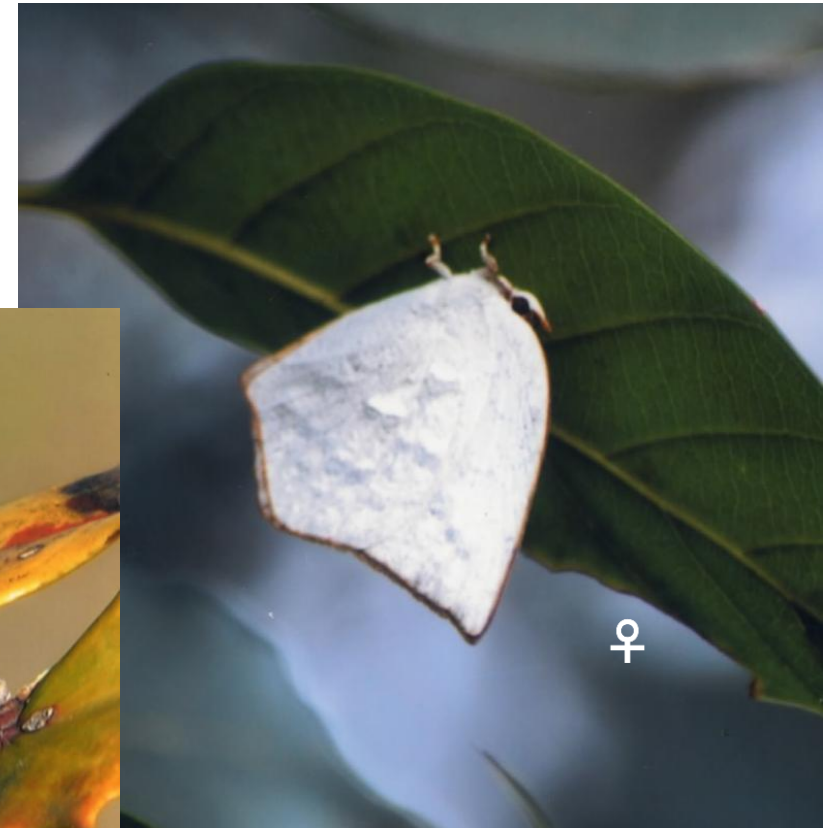
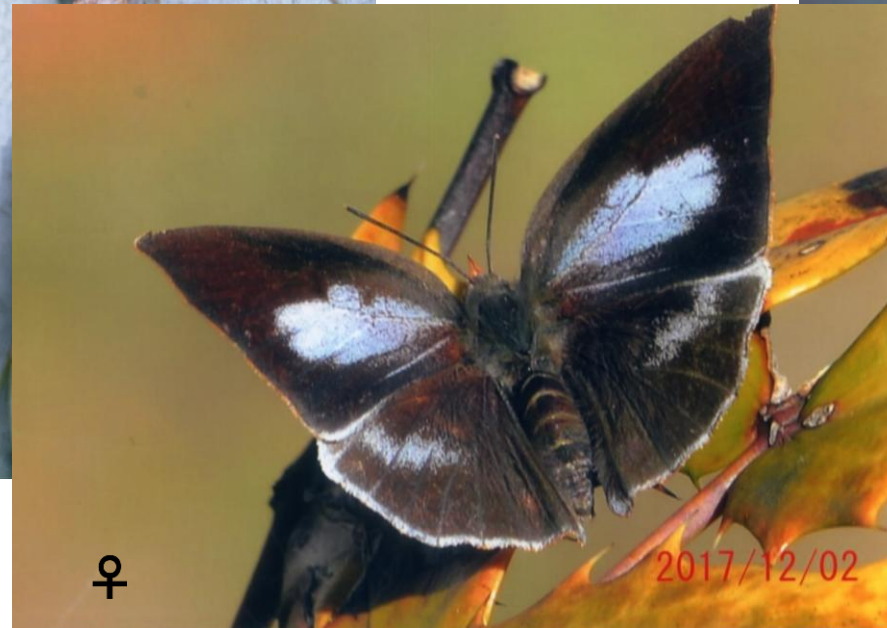


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C	シジミチョウ科
---	---------

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

えっとう けいたい たまご
越冬形態:卵

C3 ウラゴマダラシジミ こがた 小型 じゅうよう ほ ご しゅ 重要保護種 Cランク

せいそくかんきょう へいち きゅうりょうち やつ と しゅうへん
生息環境:平地～丘陵地、谷津(戸)周辺。

き おお ばしょ はな あつ
イボタノキの木が多い場所、クリなどの花に集まる。



写真:田島友昭



写真:田島友昭

C

シジミチョウ科

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

C4 ウラナミシジミ

こがた
小型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫・サナギ

せいそくかんきょう くさはら ち おお はっせい か しょくぶつ おお ばしょ
生息環境:草原地に多く発生。マメ科の植物の多い場所。



写真:田島友昭

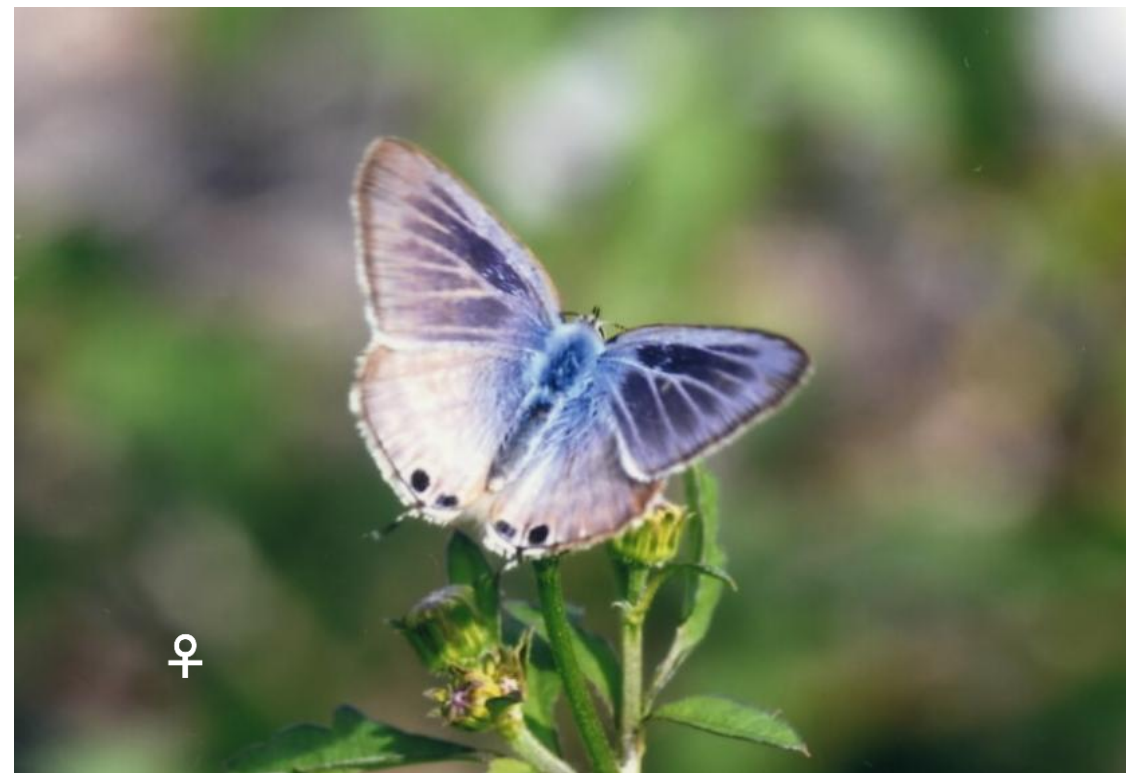


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C

シジミチョウ科

C5 オオミドリシジミ

こがた
小型よう ほ ご しゅ
要保護種Cランク

やっ ど あ すく げきげん
谷津にあらわれる度合い 少ない(激減)

えっとう けいたい たまご
越冬形態:卵

せいそくかんきょう しんりん へいち きゅうりょうち ぞうきばやし はっせい
生息環境:森林、平地や丘陵地の雑木林で発生。

はな おとず
コナラ、ミズナラ、カシワ、クリの花にも訪れる。



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ ど あ み げきげん
 谷津にあらわれる度合い ほとんど見られず(激減)



写真:田島友昭

せいそくかんきょう しんりん りんえん じんか はっせい
 生息環境:森林、林縁の人家、ササ、タケで発生。
 ようちゅう にっぽん ゆいいつ じゅんにくしよくせい たけ
 幼虫は日本のチョウで唯一の純肉食性で竹など
 えさ
 につくアブラムシが餌。



写真:田島友昭

C

シジミチョウ科

C7 ツバメシジミ

こがた
小型えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫やっ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多いせいそくかんきょう そうげん のうち こうえん ぼくそうち
生息環境:草原、農地、公園、牧草地。

レンゲ、シロツメクサ、ハギ、マメなどのマメ科

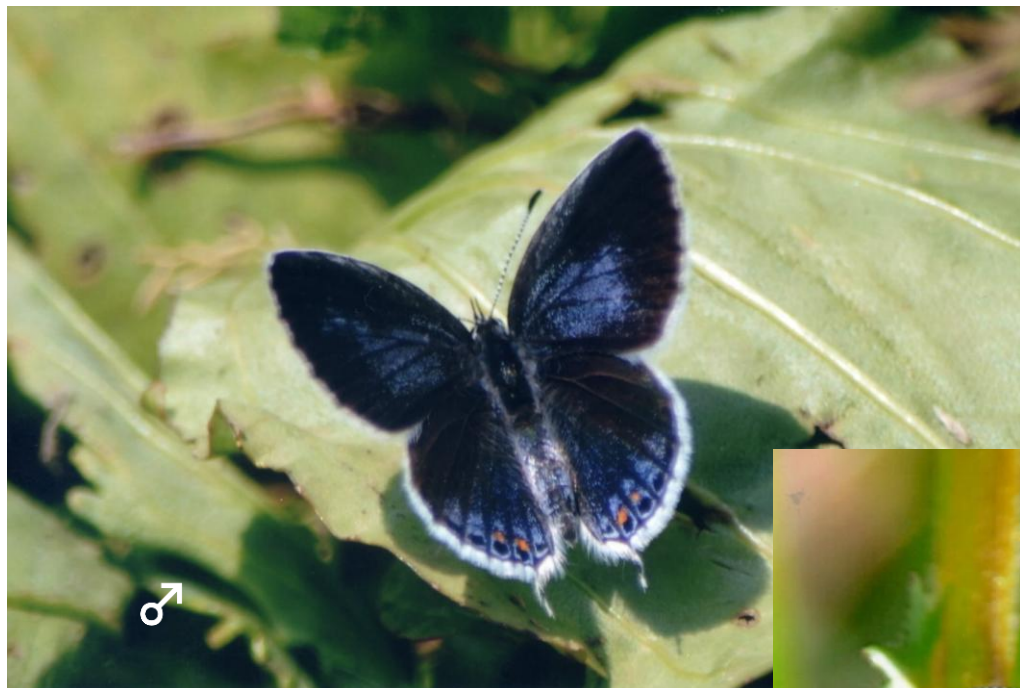


写真:田島友昭

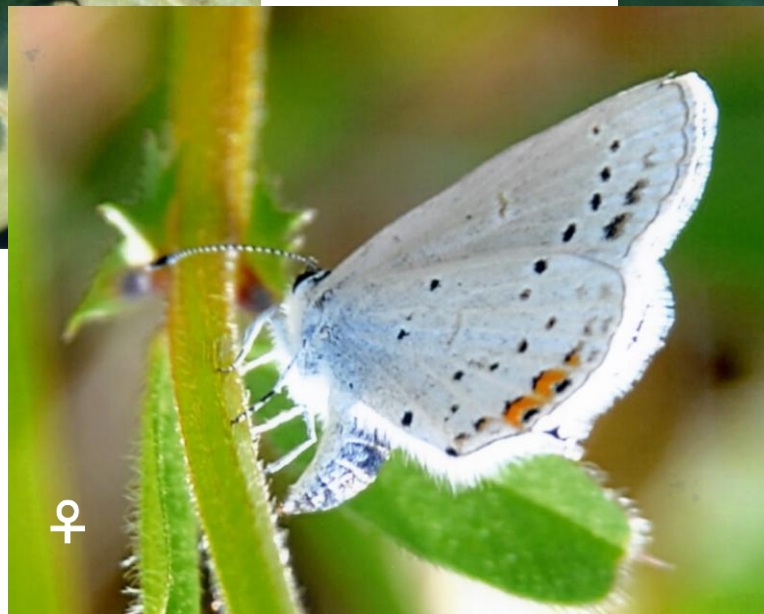


写真:田島友昭

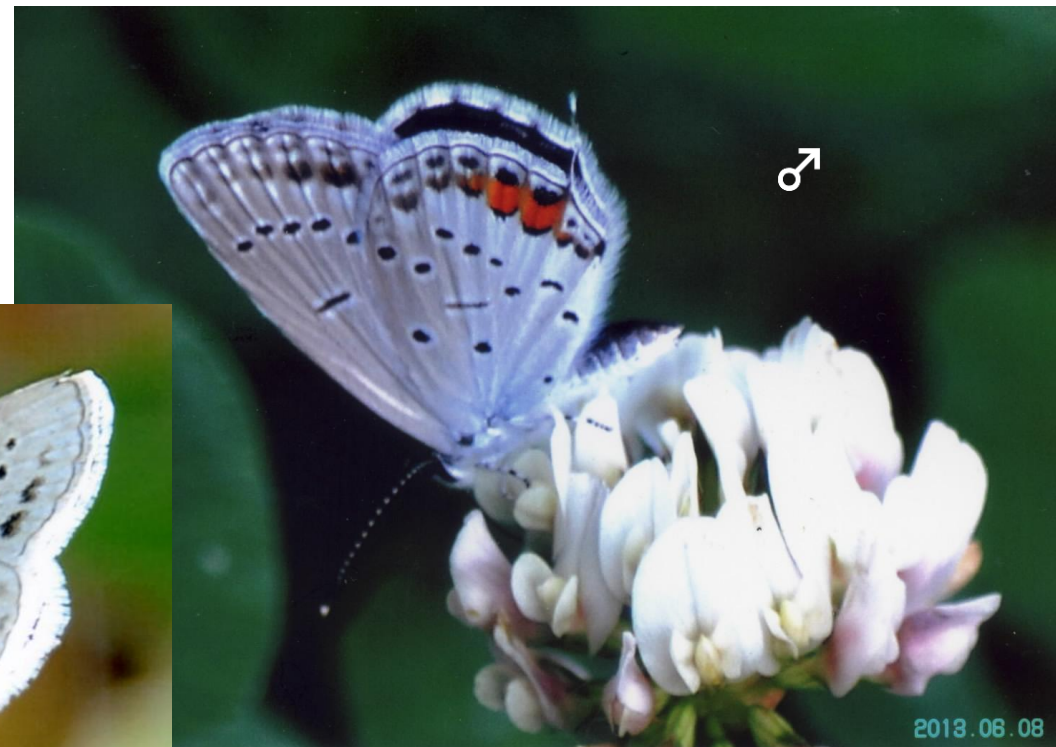


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C	シジミチョウ科
---	---------

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い



写真:田島友昭



写真:田島友昭

C8 ベニシジミ

こがた
小型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう くさはら のうち とし こうえん はっせい か
生息環境:草原、農地、都市公園などに発生。スイバなど(タデ科)。



写真:田島友昭

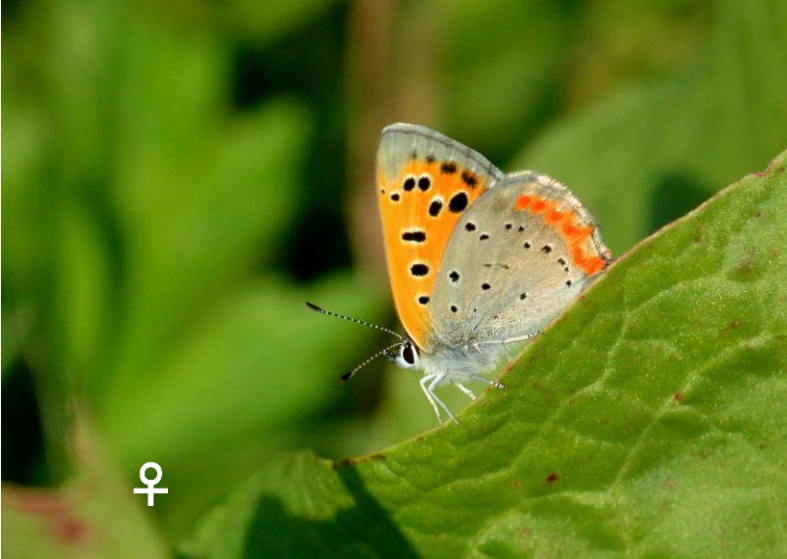


写真:田島友昭



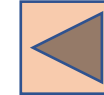
最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C

シジミチョウ科

C9 ミズイロオナガシジミ

こがた
小型

よう ほ ご しゅ
要保護種Cランク

やつ ど あ すく げきげん
谷津にあらわれる度合い 少ない(激減)

せいそくかんきょう もり こうえん か
生息環境: 森、公園など。クヌギ、カシワ、コナラなどブナ科

えっとう けいたい たまご
越冬形態: 卵



写真: 須田猛



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C

シジミチョウ科

C10 ミドリシジミ

こがた 小型
よう ほ ご しゅ
要保護種Cランクえっとう けいたい たまご
越冬形態:卵

やつ ど あ ねん かいまいとしみ
谷津にあらわれる度合い 年1回毎年見られる

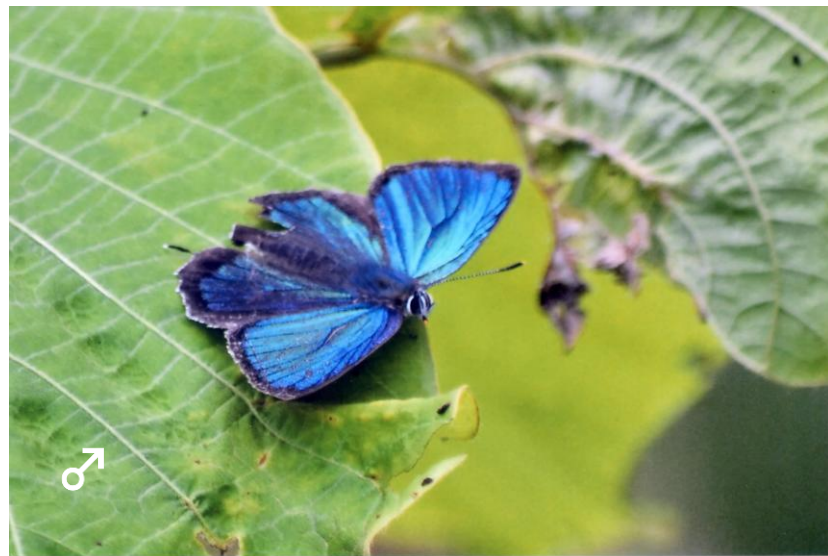


写真:田島友昭

せいそくかんきょう しんりん しっち かせん ばやし せいそくち
生息環境:森林、湿地、河川。ハンノキ林が生息地。
きゅうみつ はな
吸蜜はクリの花など。



写真:田島友昭

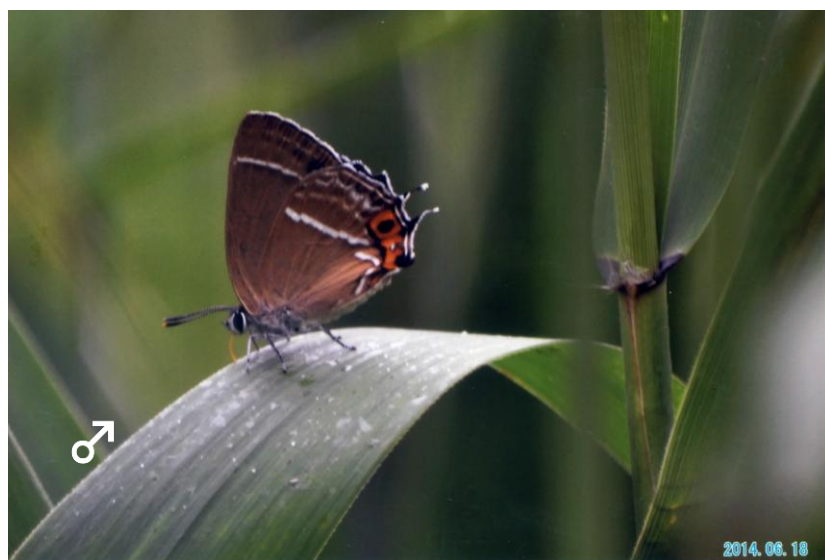


写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C	シジミチョウ科
---	---------

やつ どあ ふつう
 谷津にあらわれる度合い 普通



写真: 田島友昭



写真: 田島友昭

CII ムラサキシジミ

こがた
 小型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態: 成虫

せいそくかんきょう しんりん ていち しょうようじゅりん か
生息環境: 森林、低地の照葉樹林。アラカシ、クヌギ、コナラ、ブナ科。



写真: 池田日出男



写真: 田島友昭

-  最初へ
-  目次へ
-  次へ
-  前へ
-  最後へ

C	シジミチョウ科
---	---------

やっ どあ すく
 谷津にあらわれる度合い 少ない



写真: 田島友昭



写真: 田島友昭

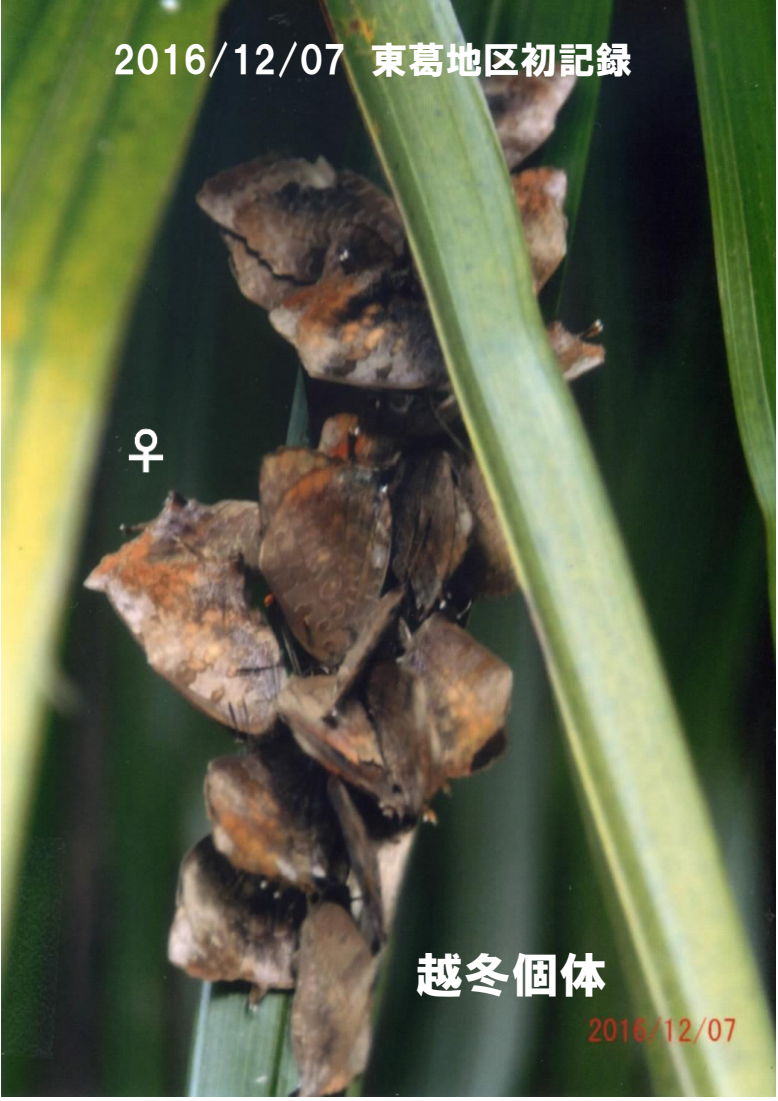
2017/11/17

C12 ムラサキツバメ

こがた
 小型

えっとう けいたい せいちゅう
 越冬形態: 成虫

せいそくかんきょう しんりん こうえん へいち しょうようじゅりん か
 生息環境: 森林、公園、平地の照葉樹林。マテバシイなどブナ科に。



2016/12/07 東葛地区初記録

越冬個体

2016/12/07

写真: 田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

C	シジミチョウ科
---	---------

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い



写真:田島友昭



写真:田島友昭

C13 ヤマトシジミ

こがた
小型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう くさはら こうえん ふつう はっせい か
生息環境:草原、公園に普通に発生。カタバミ科。



写真:田島友昭



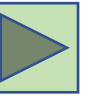
写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

シジミチョウ科

こがた
小型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ

やっ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう しんりん くさはら こうえん ふつう はっせい
生息環境：森林、草原、公園などで普通に発生。

ハギ、フジ、クス、バラ科シソ科でも発生



写真：田島友昭



写真：田島友昭



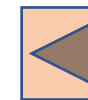
最初へ



[目次へ](#)



次へ



[前へ](#)



最後へ

D

タテハチョウ科

D I アオタテハモドキ

ちゅうがた
中型えっとう けいたい せいちょう
越冬形態:成虫

やつ どあ ひじょう
谷津にあらわれる度合い:非常にまれ

おきなわちほう ていちゃく ほうじょうけいこう
沖縄地方で定着。北上傾向であるが、これは飼育体か迷チョウか？



写真:田島友昭

参考資料
参照ボタン

さいご さんこうしりょう せつめい
最後のページの参考資料に説明があります。



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

D2 アカタテハ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

せいそくかんきょう しんりん くさはら こうえん くさち あぜ はっせい
生息環境:森林、草原、公園、草地、畔などで発生。
か
イラクサ、カラムシ(イラクサ科)



写真:田島友昭



写真:田島友昭



写真:池田日出男

やっ どあ かくだいちゅう がいらいしゅ ひじょう おお
谷津にあらわれる度合い 拡大中 (外来種)、非常に多い。

とくていいらいせいぶつ
特定外来生物

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態: 幼虫

せいそくかんきょう しんりん のうち こうえん しがいち はっせい
生息環境: 森林、農地、公園、市街地、エノキがあれば発生する。



写真: 池田日出男

写真: 田島友昭



はる はっかがた おお
春は白化型が多い



写真: 田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

タテハチョウ科

おおがた
大型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

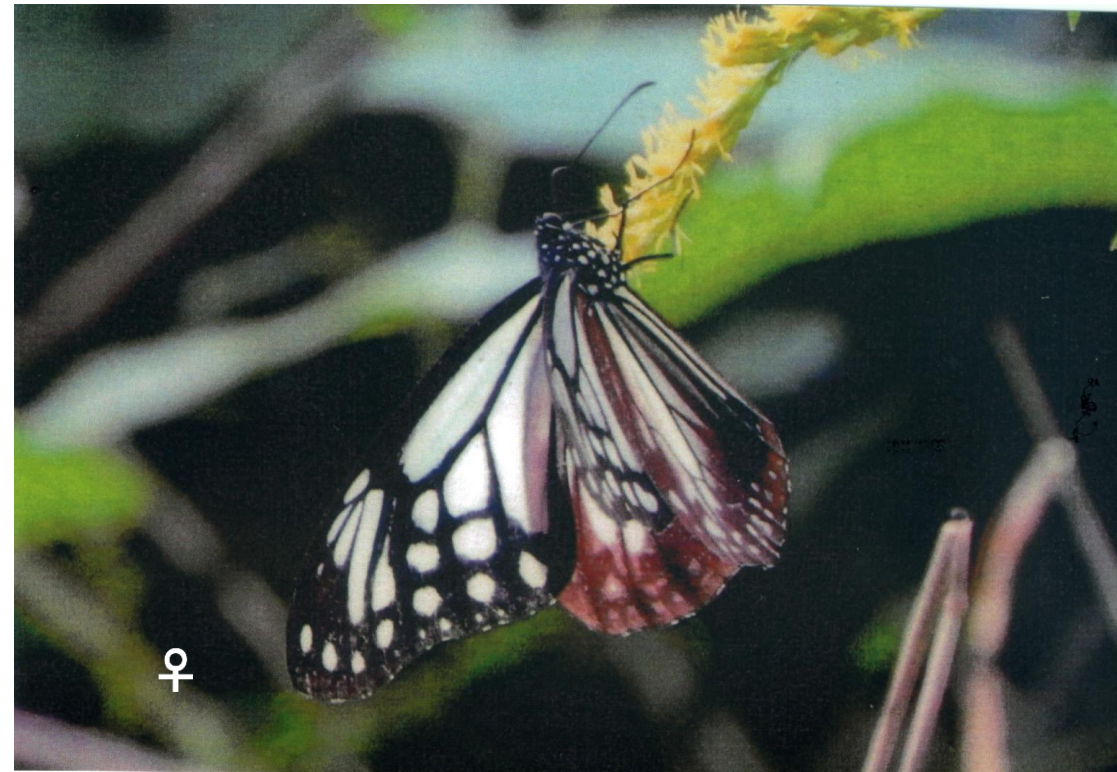
やっ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

せいそくかんきょう なつ さんち じゅりん あき なんか めい
生息環境：夏は山地、樹林。秋には南下する。迷チョウか？

キジョラン、イケマ（ガガイモ科）など、ヒヨドリバナにも



写真：池田日出男



写真：田島友昭

[参考資料](#)
[参照ボタン](#)

さいご さんこうしりょう せつめい
最後のページの参考資料に説明があります。



最初へ



[目次へ](#)



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

D5 イチモンジチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう へいち さんち ぞうきばやしふきん この
生息環境:平地～山地の雑木林付近。スイカズラ、ウツギなどが好み。



写真:池田日出男



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

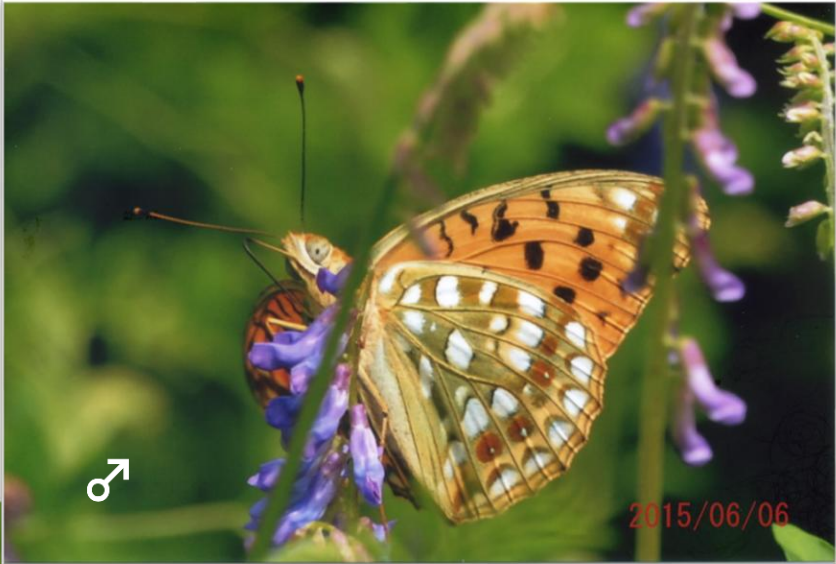
D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ すく
 谷津にあらわれる度合い 少ない

D6 ウラギンヒョウモン

ちゅうがた さいじゅうよう ほうご しゅ
 中型 最重要保護種A

せいそくかんきょう へいち さんち くさはら やつ か ぐん はっけん
 生息環境：平地～山地の草原。谷津ではクサフジ（マメ科）群で発見。



写真：田島友昭

えっとう けいたい ようちゅう
 越冬形態：幼虫



写真：田島友昭

写真：田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ すく
 谷津にあらわれる度合い 少ない

えっとう けいたい ようちゅう たまご
 越冬形態:幼虫・卵

D7 オオウラギンスジヒョウモン ちゅうがた さいじゅうよう ほうご しゅ 中型 最重要保護種A

せいそくかんきょう くさはら ひじょう ひろ ばしよ はっせい すく
 生息環境:草原、非常に広い場所で発生、しかし少ない。

この
 スミレ、アザミ、オカトラノオなどが好み。



写真:田島友昭

2015/07/08



写真:田島友昭

2019/07/03

D

タテハチョウ科

D8 キタテハ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう へいち くさはら こうえん じんか か
生息環境:平地～草原、公園、人家。カナムグラ(イラクサ科)

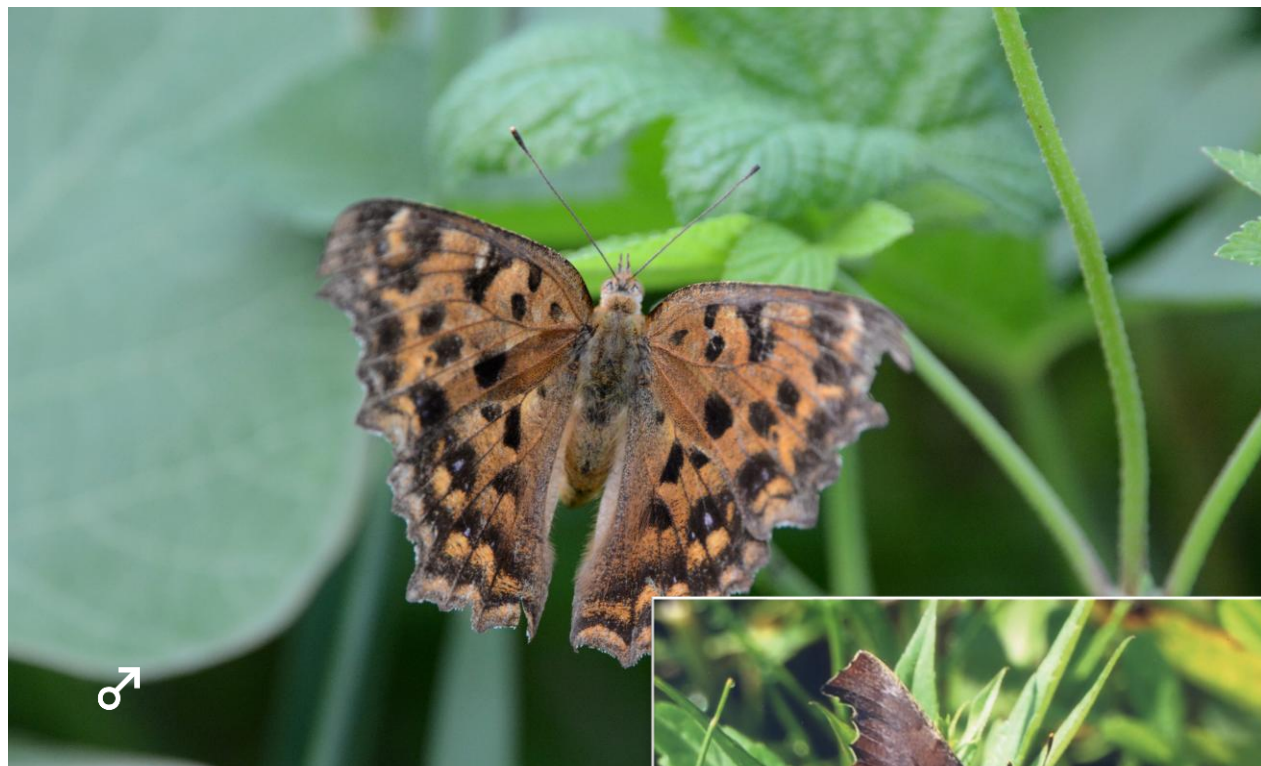


写真:池田日出男



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

D9 クロコノマチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

せいそくかんきょう しんりん じゅりん しゅうへん くら ところ この
生息環境:森林、樹林やその周辺。暗い所を好む。

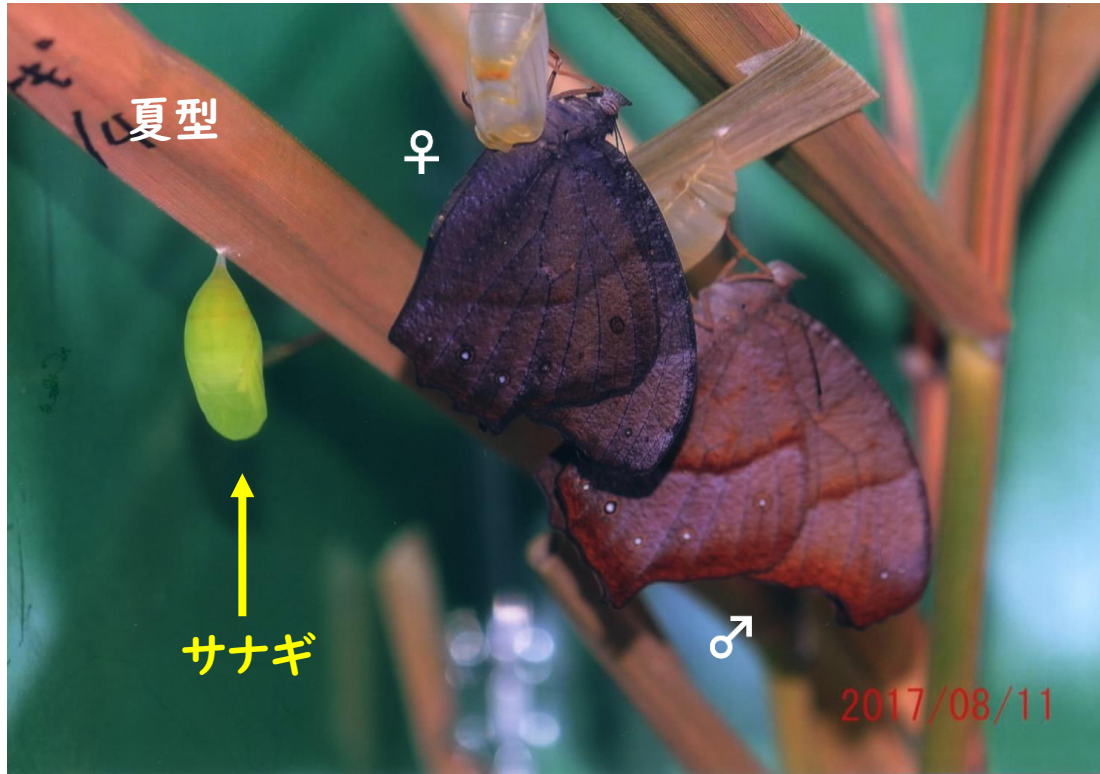


写真:田島友昭



写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D10 クロヒカゲ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ もくし れい はっけん
谷津では目視例はあるが発見されていない。

さんこうしゃしん きさい
参考写真として記載しました。

こんご はっけん ばあい たいへん きちようしゅ
今後、発見された場合は大変な貴重種である

ぜんこくてき おお ちいき すく
全国的に多いがこの地域では少ない

せいそくかんきょう へいち じゅりんしゅうへん
生息環境:平地の樹林周辺。

か じゅえき あつ
ササやイネ科、クヌギやコナラの樹液に集まる。

参考写真



写真:池田日出男

撮影日:2017年9月4日

撮影場所:福島県昭和村矢の原湿原



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D11 コジャノメ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

せいそくかんきょう はやし ふち ぞうきばやし

生息環境:林の縁や雑木林。ススキ、ササなど。



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ げんしょうちゅう
谷津にあらわれる度合い 減少中

D12 ゴマダラチョウ

ちゅうがた
中型

ようほごしゅ
要保護種Cランク

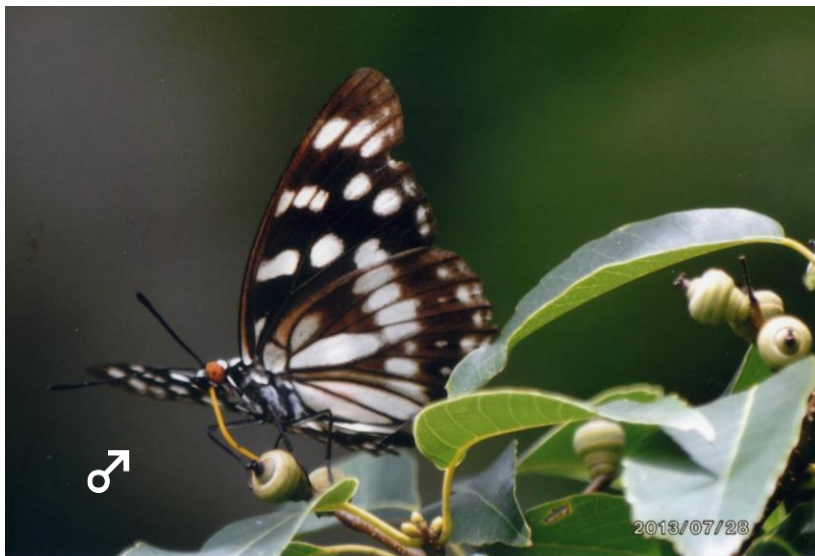
せいそくかんきょう しんりん こうえん らくようじゅりん ぞうきばやし み か
生息環境：森林、公園、落葉樹林、雑木林で見られる。エノキ（ニレ科）



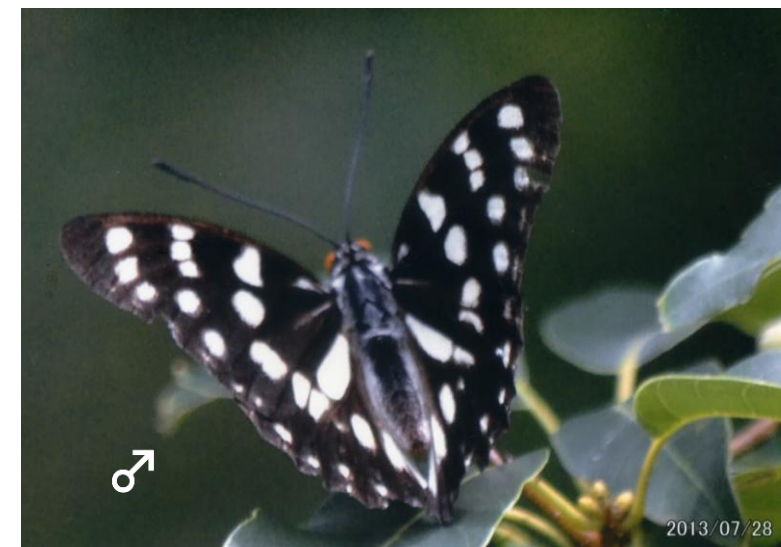
写真：池田日出男



写真：吉田隆行



写真：田島友昭



写真：田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態：幼虫

D

タテハチョウ科

D13 コミスジ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

せいそくかんきょう しんりん こうえん りんえん へいち じゅりんち ぞうきばやし
生息環境:森林、公園、林縁、平地の樹林地、雑木林。

か
フジ、クズ、ハギなど(マメ科)



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない



写真:田島友昭

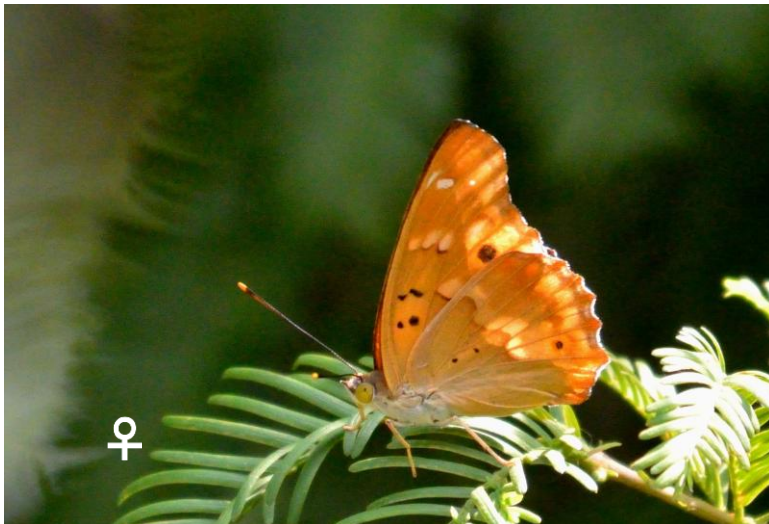


写真:池田日出男

D14 コムラサキ

ちゅうがた
中型

よう ほ ご しゅ
要保護種Cランク

せいそくかんきょう しんりん こうえん へいち さんち るい おお しっち たい とし
生息環境:森林、公園、平地～山地、ヤナギ類の多い湿地帯、都市
公園など。フジ、クズ、ハギなど(マメ科)



写真:田島友昭

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

日本固有種

せいそくかんきょう しんりん こうえん りんえん へいち さんち しんりん
生息環境: 森林、公園、林縁、平地～山地の森林。

か じゅえき この
マダケ、ササ(イネ科)。クヌギ、コナラの樹液を好む



写真:池田日出男



写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ

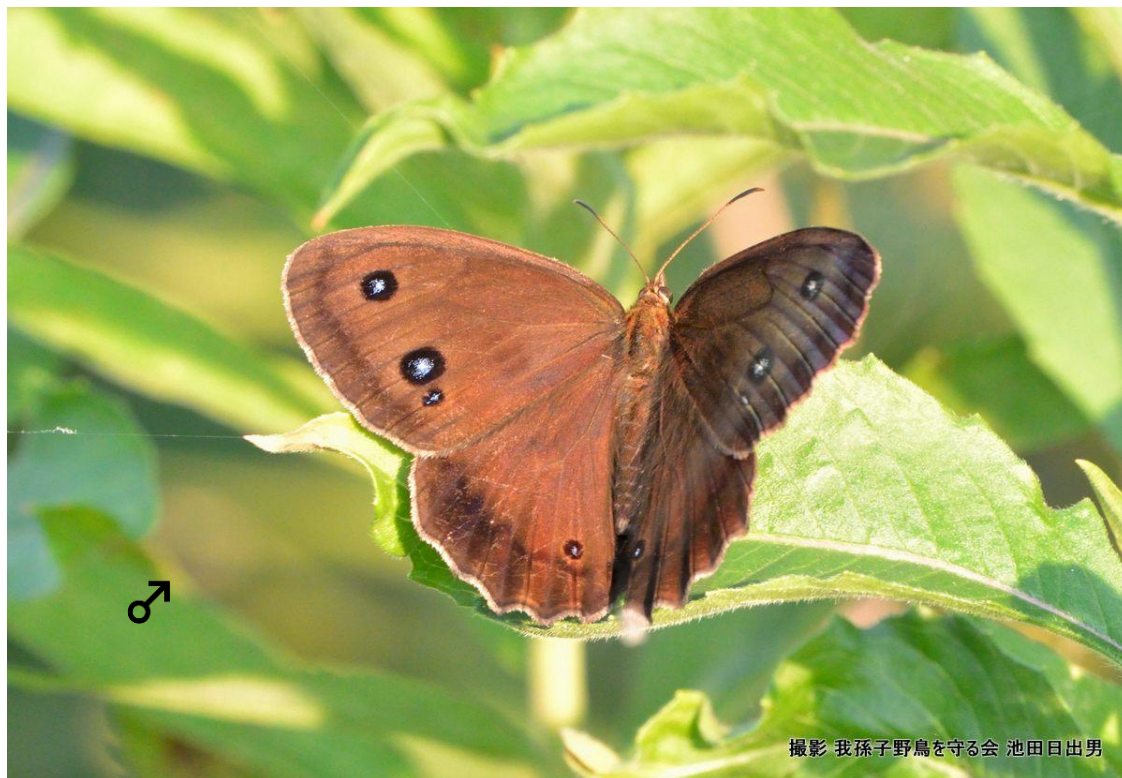


最後へ

D

タテハチョウ科

D16 ジャノメチョウ

ちゅうがた
中型ようほごしゅ
要保護種Cランクやっ どあ
谷津にあらわれる度合いひじょう すく ねん かいはっせい
非常に少ない、年1回発生せいそくかんきょう くさはら のうち ぞうきばやししゅうへん くさち あか ばしよ この
生息環境：草原、農地、雑木林周辺の草地。明るい場所が好み。か
ススキ、スズメノカタビラ（イネ科）えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態：幼虫

写真：池田日出男



写真：池田日出男

参考資料
参照ボタンさいご さんこうしりょう せつめい
最後のページの参考資料に説明があります。

最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D17 ツマグロヒョウモン

ちゅうがた
中型

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう くさはら のうち じゅうたくち こうえん
生息環境: 草原、農地、住宅地、公園。スマレ、パンジー。

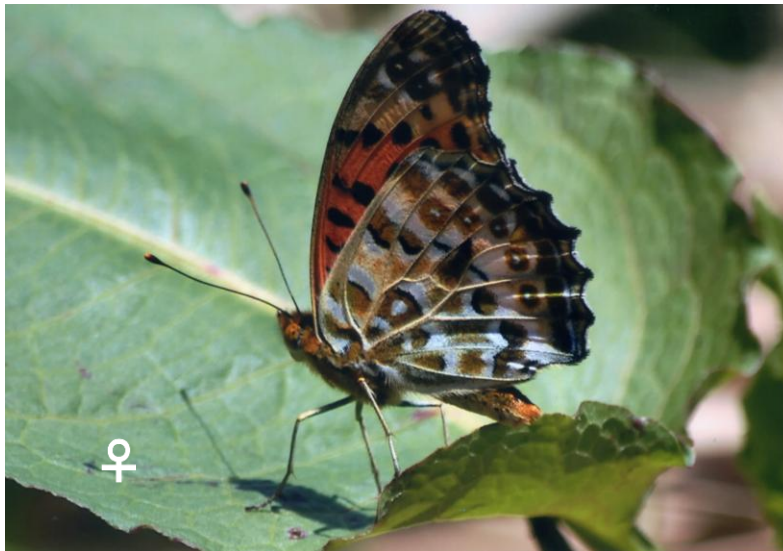
えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態: 幼虫・サナギ

写真: 池田日出男



写真: 池田日出男

写真: 田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

D18 テングチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

やつ どあ
谷津にあらわれる度合い

多くはないが、越冬後にみられる。

せいそくかんきょう しんりん こうえん りよくち へいち さんち こうようじゅりん
生息環境:森林、公園、緑地、平地～山地の広葉樹林。

か
エノキなどニレ科



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

やつ どあ たいへんすく
谷津にあらわれる度合い 大変少ない

えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫

D19 ヒオドシチョウ

ちゅうがた
中型

じゅうよう ほ ご しゅ
重要保護種Bランク

せいそくかんきょう しんりん おも きゅうりょうち さんち らくようこうようじゅたい ぞうきばやし
生息環境:森林、主に丘陵地～山地の落葉広葉樹帯、雑木林。

か か
エノキ、ハルニレ(ニレ科)、ヤナギ科



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ
谷津にあらわれる度合い 普通

日本固有種

D20 ヒカゲチョウ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう へいち さんち じゅりん へいやぶ こうえん

生息環境:平地～山地の樹林、平野部の公園。

か じゅえき あつ
メダケ、ササ(イネ科)、クヌギ、コナラなどの樹液に集まる



写真:田島友昭



写真:田島友昭



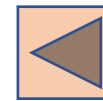
最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D	タテハチョウ科
---	---------

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

D21 ヒメアカタテハ

ちゅうがた
中型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう へいち こうえん じんかしゅうへん へいち あか ばしよ
生息環境:草原、公園、人家周辺、平地など明るい場所。

か おとず
ヨモギ、カラムシ(イラクサ科)、タンポポなどに訪れる。



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D22 ヒメウラナミジャノメ こがた 小型えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多いせいそくかんきょう りんえん くさはら しっち せたけ ひく くさち と し げんしょう
生息環境:林縁、草原、湿地、背丈の低い草地。都市では減少している。か
ススキ、チガヤ、メヒシバ(イネ科)

写真:田島友昭

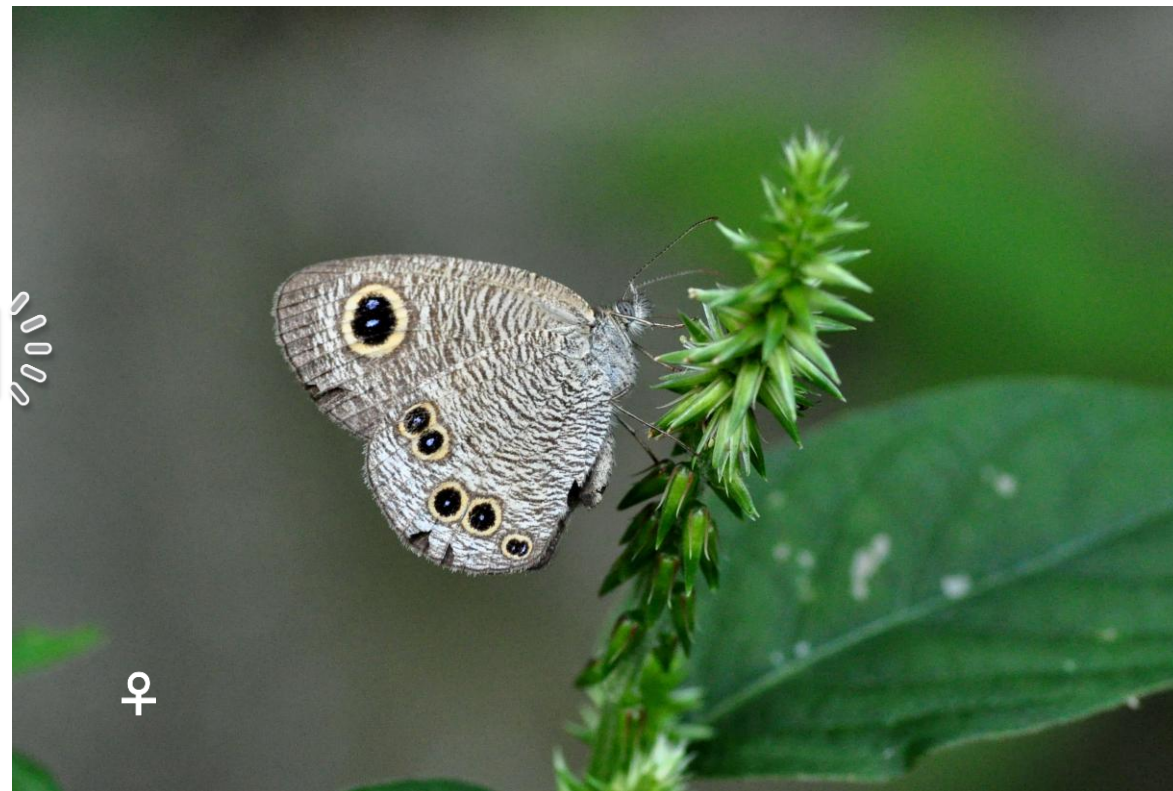


写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D23 ヒメジャノメ

ちゅうがた
中型えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

せいそくかんきょう りんえん のうち こうえん あか くさち とし げんしょうけいこう
生息環境:林縁、農地、公園、明るい草地。都市では減少傾向。

か
イネ、ススキ、ササ(イネ科)。



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D24 ミドリヒョウモン

ちゅうがた
中型よう ほ ご しゅ
要保護種Cランク

やつ ど あ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

えっとう けいたい ようちゅう たまご
越冬形態:幼虫・卵

せいそくかんきょう しんりん りんえん じゅりん しゅうへん りんどう

生息環境:森林、林縁、樹林の周辺、林道など。

かくしゅ ぐん はな きゅうみつ おとず
スミレ(各種のスミレ群)、アザミ、クリなどの花に吸蜜に訪れる。

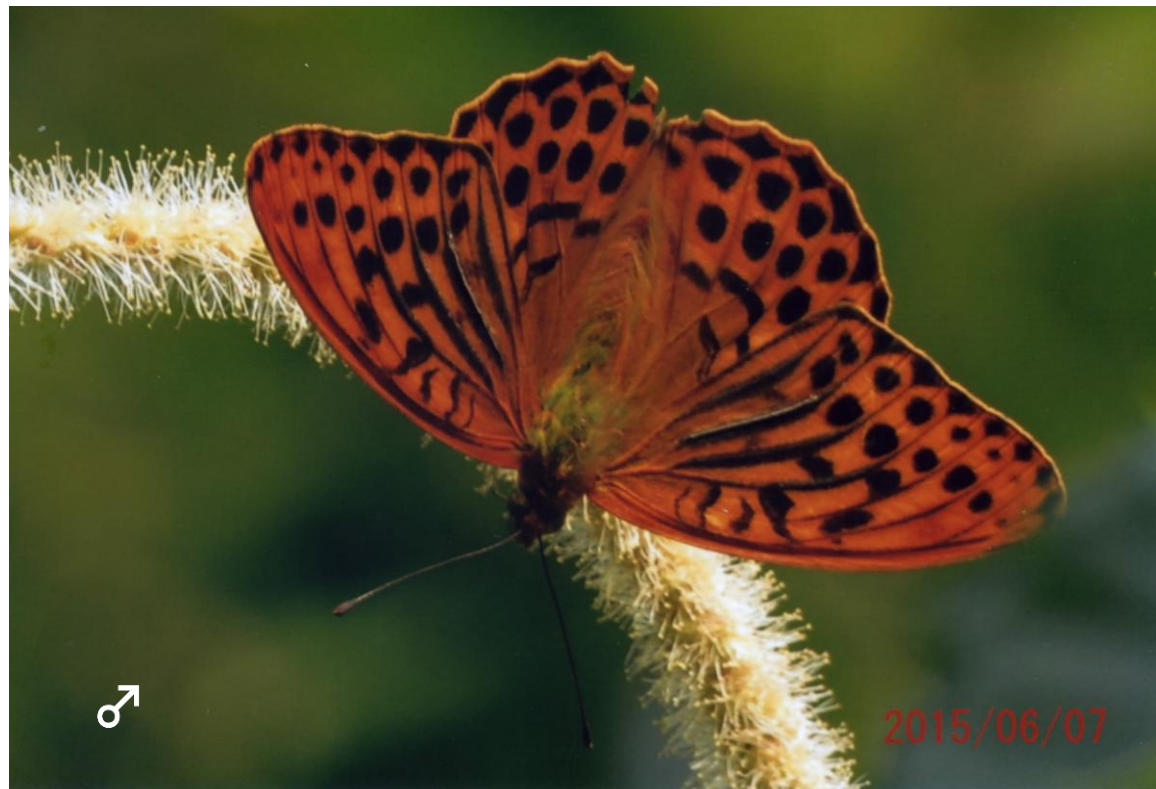


写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

D25 メスグロヒョウモン 中型

ちゅうがた

えっとう けいたい ようちゅう たまご
越冬形態:幼虫・卵

せいそくかんきょう しんりんしゅうへん りんどうしゅうへん ぞうきばやし

生息環境:森林周辺、林道周辺、雑木林。

かしよくぶつ

はな

おとず

スミレ科植物、クリなどの花などに訪れる。

写真:田島友昭



写真:田島友昭

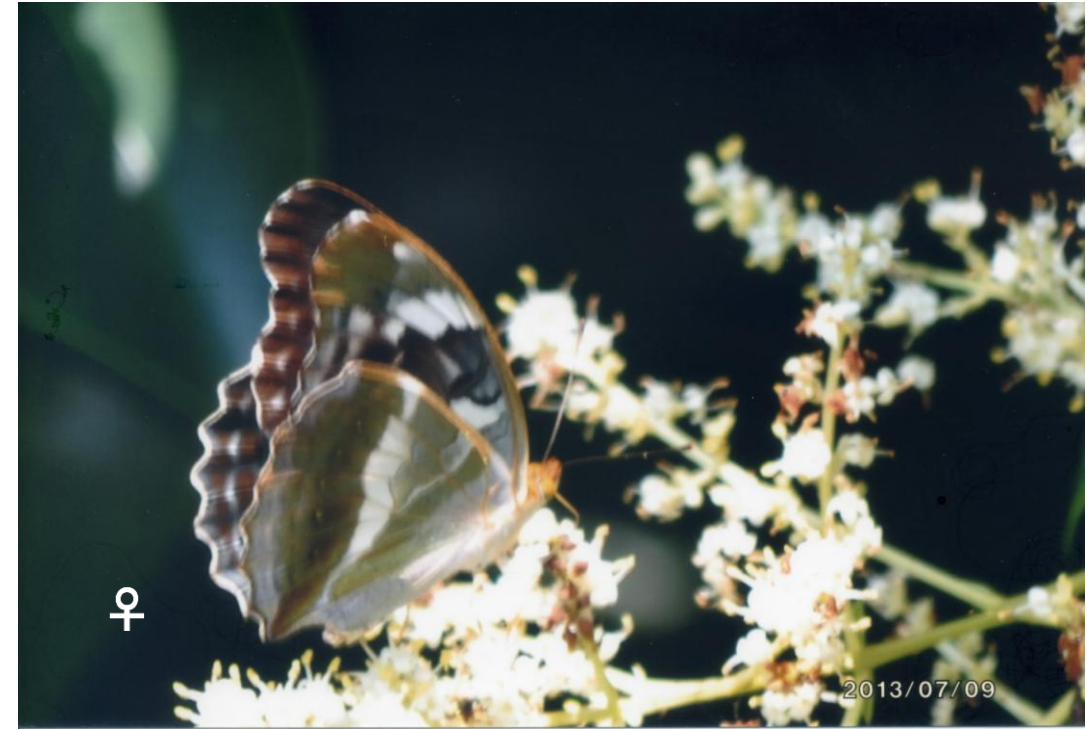


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

D

タテハチョウ科

D26 ルリタテハ

ちゅうがた
中型えっとう けいたい せいちゅう
越冬形態:成虫やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通せいそくかんきょう こうえん じんかしゅうへん ぞうきばやし あか ばしょ
生息環境:公園、人家周辺、雑木林の明るい場所。ほか か じゅえき あつ
サルトリイバラ、ホトトギス、他にユリ科。クヌギ、コナラの樹液に集まる。

写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

EI イチモンジセセリ こがた 小型

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い 多い

せいそくかんきょう くさはら こうえん きゅうりょうちたい
生息環境: 草原、公園、丘陵地帯。

か
イネ、チガヤ、ススキ、ササ(イネ科)。



えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態: 幼虫・サナギ

写真: 田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

E2 オオチャバネセセリ

こがた
小型じゅうよう ほご しゅ
重要保護種Bランク

や つ ど あ すく ねん すうかい
谷津にあらわれる度合い 少ない 年に数回

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

せいそくかんきょう くさち はら
生息環境:草地、ササ原

か
アズマネザサ、メダケ、ササ、ススキ(イネ科)。



写真:池田日出男

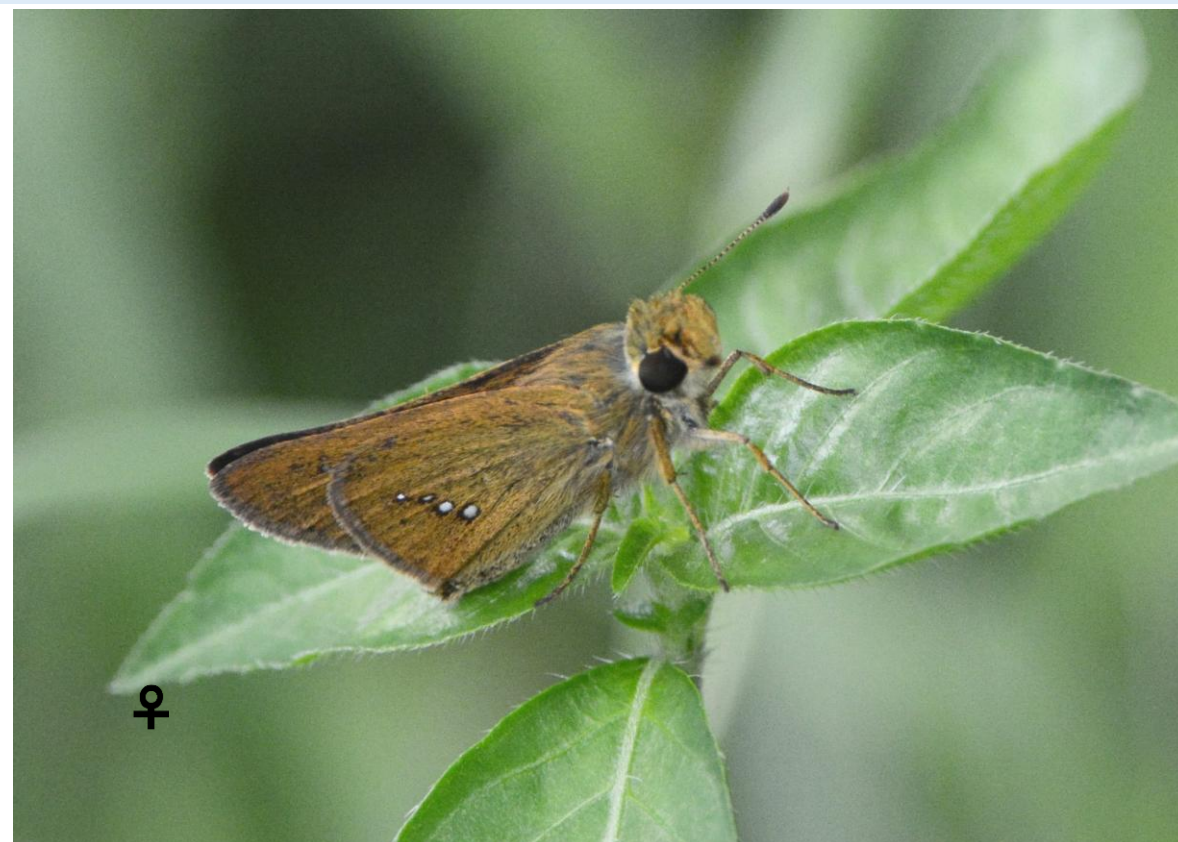


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

E3

キマダラセセリ

こがた
小型えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ すうねん すく
谷津にあらわれる度合い この数年少ない

せいそくかんきょう しんりん へいち ていさんち くさち
生息環境:森林、平地～低山地の草地。

アズマネザサ、マダケ、ススキ(他イネ科)。
ほか か

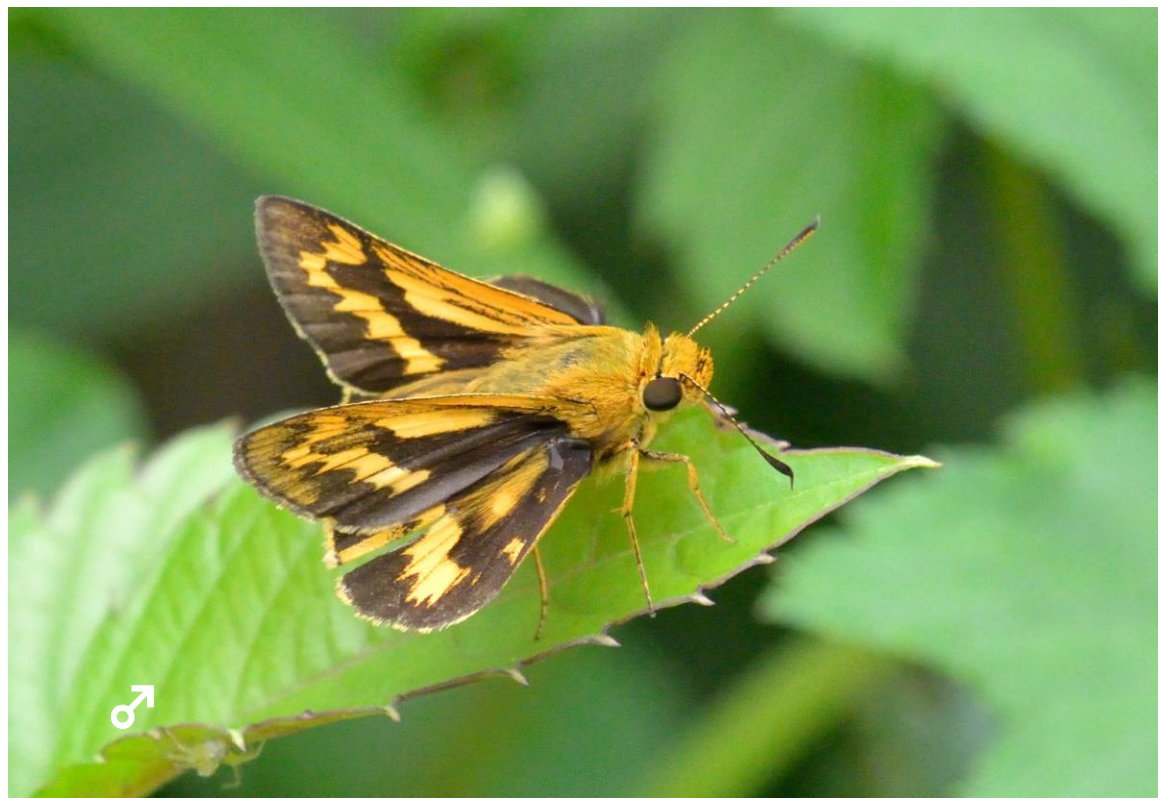


写真:池田日出男

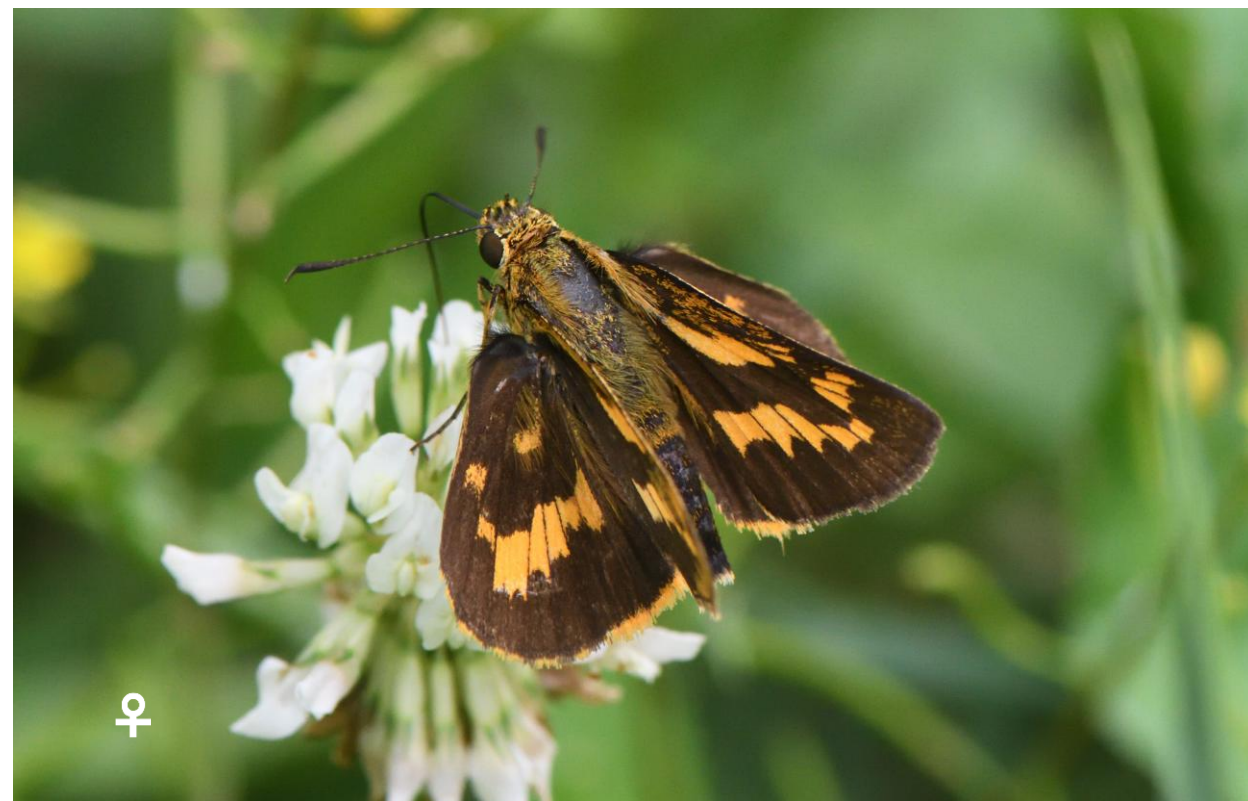


写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

やつ どあ おお
 谷津にあらわれる度合い 多い

えっとう けいたい ようちゅう
 越冬形態:幼虫

E4 ギンイチモンジセセリ

こがた
小型いっぱん ほご
一般保護(D)

せいそくかんきょう くさはら はら へいち さんち くさはら
 生息環境:草原、ヨシ原、平地～山地の草原。

ススキ、チガヤ、ヨシ(イネ科)。



写真:田島友昭

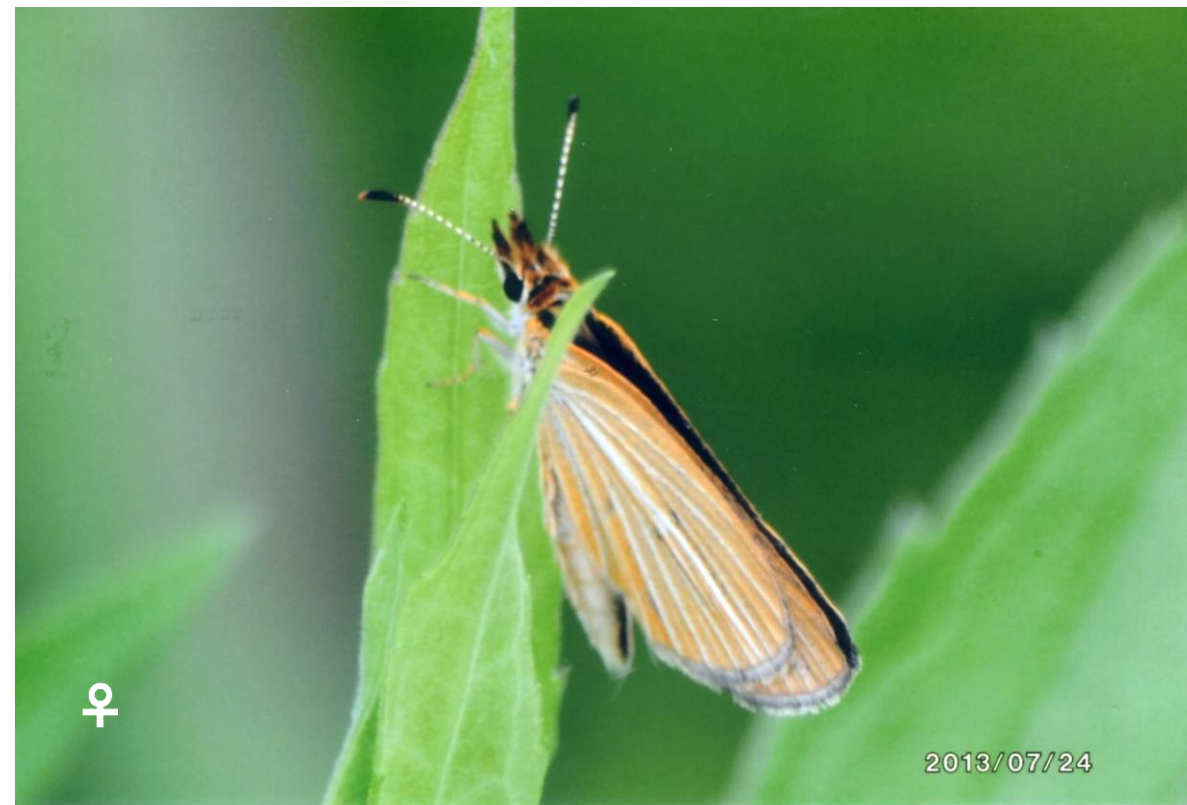


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

E5 コチャバネセセリ

こがた
小型

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

せいそくかんきょう りんない くうかん へいち さんち るい
生息環境:林内の空間、平地～山地のタケ、ササ類。
 はな あつ
アザミの花などに集まる。



写真:池田日出男



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

E6 ダイミョウセセリ

こがた
小型えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫

やつ どあ ふつう
谷津にあらわれる度合い 普通

せいそくかんきょう しんりん へいち さんち じゅりん くさはら

生息環境:森林、平地～山地、樹林や草原。

か はな おとず
ヤマモ、ナガイモ、ヤマモ科、アザミなどの花に訪れる。

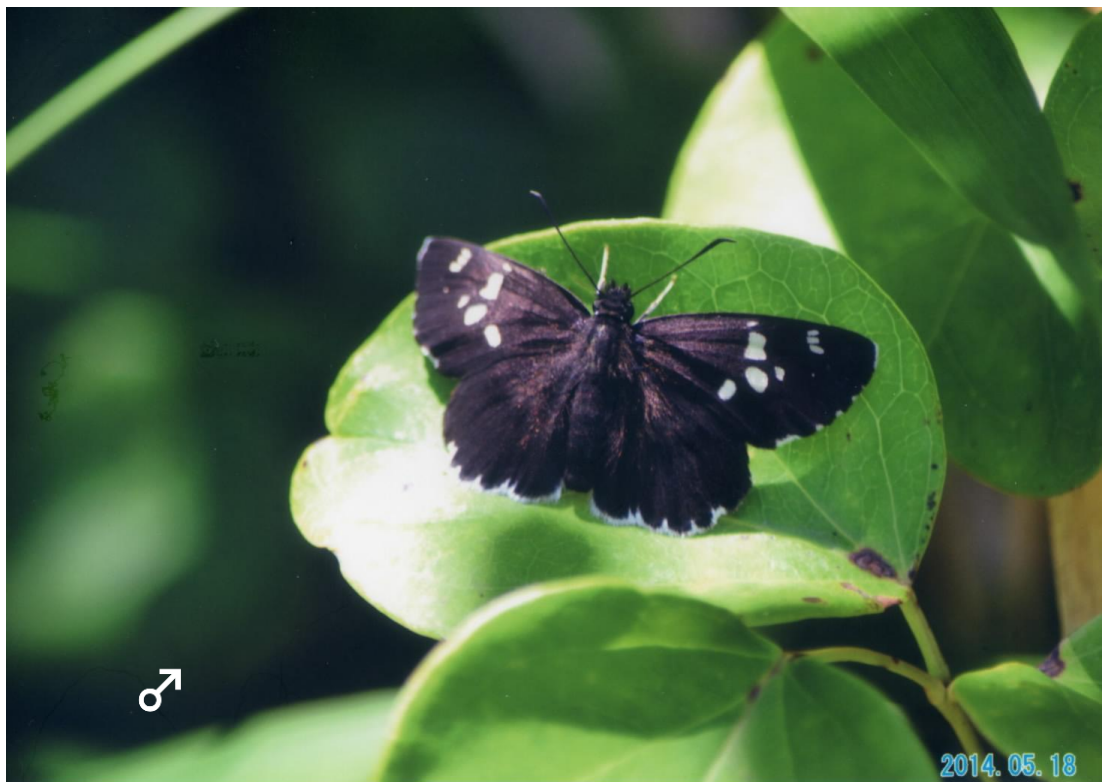


写真:田島友昭

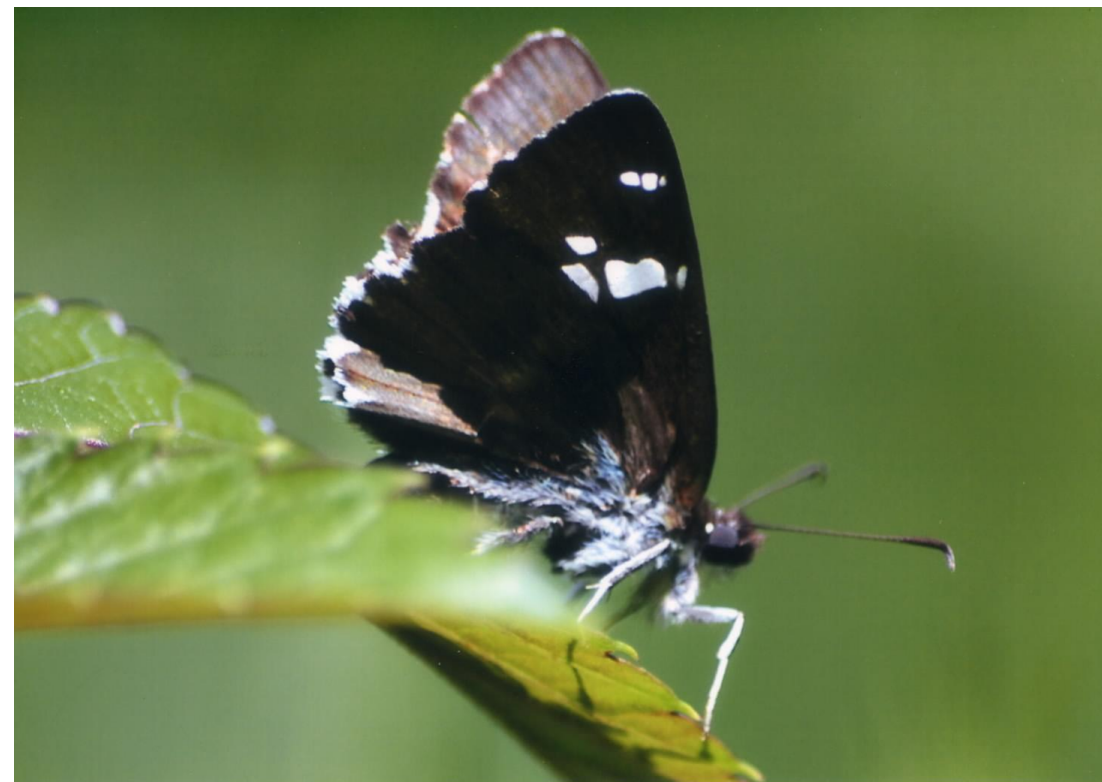


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E

セセリチョウ科

E7 チャバネセセリ

こがた
小型

えっとう けいたい
越冬形態:サナギ・幼虫

やつ どあ おお
谷津にあらわれる度合い あまり多くない

せいそくかんきょう りんえん のうち こうえん くさち
生息環境:林縁、農地、公園、草地。

チガヤ、イネ、ススキ、ヨシ。



写真:田島友昭



写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

E	セセリチョウ科
---	---------

やつ どあ すく
谷津にあらわれる度合い 少ない

えっとう けいたい ようちゅう
越冬形態:幼虫・サナギ

E8 ミヤマチャバネセセリ

こがた
小型

よう ほ ご しゅ
要保護種Cランク

せいそくかんきょう へいち さんち くさはら りんえん くさはら
生息環境:平地～山地の草原、林縁の草原。

か はな おとず
ススキ、チガヤ、ヨシ、イネ科。アブラナの花に訪れる。



写真:田島友昭

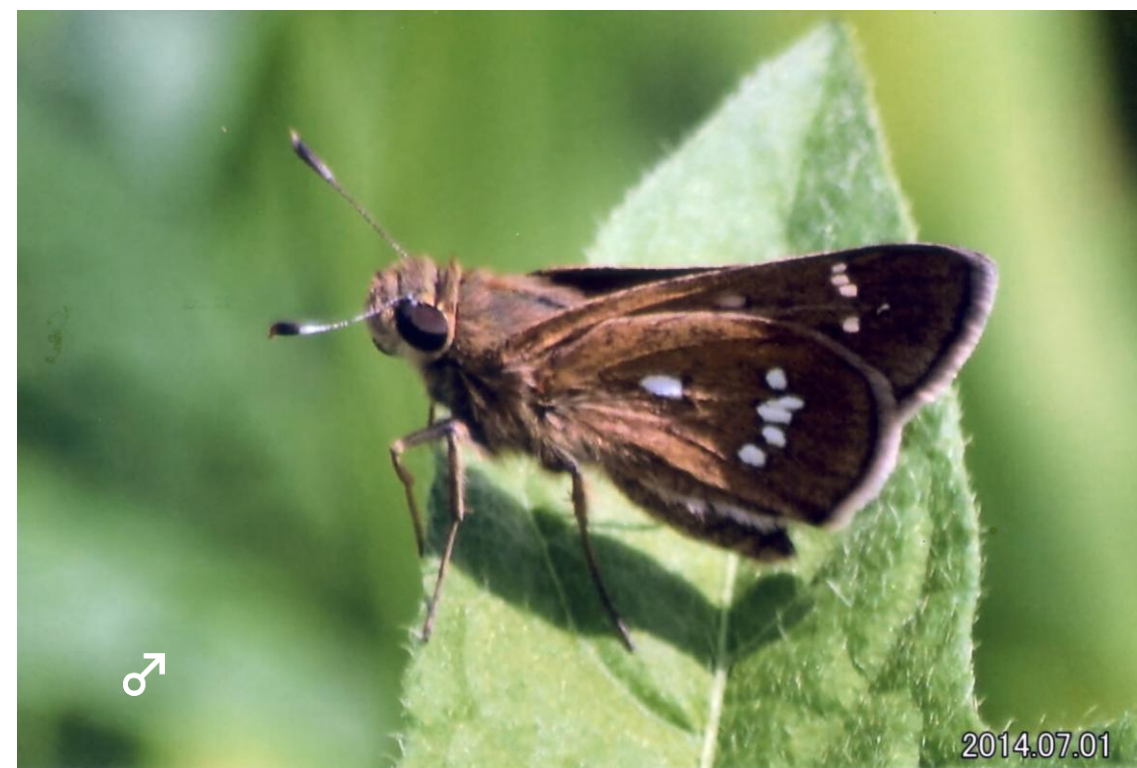


写真:田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

【参考資料】 岡発戸都部谷津のチョウ類観察記録(Ⅰ)

凡例: ×確認できない △確認少ない ○普通に確認できた ◎多く確認できた

	科名	番号	種名	最初に愛する 会で 確認できた年	2000年- 12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	ページ
A	アゲハチョウ	A1	アオスジアゲハ	1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
A	アゲハチョウ	A2	カラスアゲハ	2003	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	6
A	アゲハチョウ	A3	キアゲハ	1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
A	アゲハチョウ	A4	クロアゲハ	1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
A	アゲハチョウ	A5	ジャコウアゲハ	2003	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	9
A	アゲハチョウ	A6	ナガサキアゲハ	2006	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	10
A	アゲハチョウ	A7	ナミアゲハ	1991	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	11
A	アゲハチョウ	A8	モンキアゲハ	1967	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	12
B	シロチョウ	B1	キタキチョウ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	13
B	シロチョウ	B2	スジグロシロチョウ	1990	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	○	14
B	シロチョウ	B3	ツマキチョウ	2004	○	◎	○	◎	◎	△	○	○	◎	○	○	15
B	シロチョウ	B4	モンキチョウ	1990	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	16
B	シロチョウ	B5	モンシロチョウ	1989	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	17
C	シジミチョウ	C1	アカシジミ	2003	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	18
C	シジミチョウ	C2	ウラギンシジミ	1992	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	19
C	シジミチョウ	C3	ウラゴマダラシジミ	2003	△	○	○	△	×	×	×	△	×	×	×	20
C	シジミチョウ	C4	ウラナシジミ	2004	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	21
C	シジミチョウ	C5	オオミドリシジミ	1992	△	△	△	△	×	△	×	×	×	×	×	22
C	シジミチョウ	C6	ゴイシシジミ	1992	○	○	○	◎	○	○	○	△	△	×	×	23
C	シジミチョウ	C7	ツバメシジミ	1995	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	24

記録者・・岡発戸都部の谷津のチョウ記録集: 田島友昭

参考文献・岡発戸都部の谷津の生き物通信: 青木直芳・田島友昭 岡発戸都部の谷津を愛する会

・我孫子市の昆虫: 岡発戸都部の谷津を愛する会

・谷津のチョウ類多様性ガイド: 青木直芳・田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

【参考資料】 岡発戸都部谷津のチョウ類観察記録(2)

凡例: ×確認できない △確認少ない ○普通に確認できた ◎多く確認できた

	科名	番号	種名	最初に愛する 会で 確認できた年	2000年-12 年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	ページ
C	シジミチョウ	C8	ベニシジミ	1995	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	25
C	シジミチョウ	C9	ミズイロオナガシジミ	2004	△	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	26
C	シジミチョウ	C10	ミドリシジミ	2003	○	○	◎	◎	○	○	○	○	△	△	○	27
C	シジミチョウ	C11	ムラサキシジミ	1992	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	28
C	シジミチョウ	C12	ムラサキツバメ	2004	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	29
C	シジミチョウ	C13	ヤマトシジミ	1992	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	30
C	シジミチョウ	C14	ルリシジミ	1990	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	31
D	タテハチョウ	D1	アオタテハモドキ(沖縄地方種)	2017	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	32
D	タテハチョウ	D2	アカタテハ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	33
D	タテハチョウ	D3	アカボシゴマダラ(外来種)	2008	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	34
D	タテハチョウ	D4	アサギマダラ	2004	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	35
D	タテハチョウ	D5	イチモンジチョウ	1991	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	36
D	タテハチョウ	D6	ウラギンヒョウモン	2010	△	×	△	△	×	×	×	×	×	×	×	37
D	タテハチョウ	D7	オオウラキンスジヒョウモン	2004	△	×	△	△	×	×	×	△	×	×	×	38
D	タテハチョウ	D8	キタテハ	1992	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	39
D	タテハチョウ	D9	クロコノマチョウ	2003	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40
D	タテハチョウ	D10	クロヒカゲ	2003	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	41
D	タテハチョウ	D11	コジャノメ	2004	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	42
D	タテハチョウ	D12	ゴマダラチョウ	2004	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	43
D	タテハチョウ	D13	コミスジ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	44
D	タテハチョウ	D14	コムラサキ	2007	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	45
D	タテハチョウ	D15	サトキマダラヒカゲ	1992	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	46

記録者・
参考文献

- ・岡発戸都部の谷津のチョウ記録集: 田島友昭
- ・岡発戸都部の谷津の生き物通信: 青木直芳・田島友昭 岡発戸都部の谷津を愛する会
- ・我孫子市の昆虫: 岡発戸都部の谷津を愛する会
- ・谷津のチョウ類多様性ガイド: 青木直芳・田島友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

【参考資料】 岡発戸都部谷津のチョウ類観察記録(3)

凡例: ×確認できない △確認少ない ○普通に確認できた ◎多く確認できた

	科名	番号	種名	最初に愛する 会で 確認できた年	2000年- 12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	ページ
D	タテハチョウ	D16	ジャノメチョウ	2004	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	47
D	タテハチョウ	D17	ツマグロヒョウモン	2006	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	48
D	タテハチョウ	D18	テングチョウ	2004	△	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△	49
D	タテハチョウ	D19	ヒオドシチョウ	2006	△	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	50
D	タテハチョウ	D20	ヒカゲチョウ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	51
D	タテハチョウ	D21	ヒメアカタテハ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	52
D	タテハチョウ	D22	ヒメウラナミジャノメ	1992	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	53
D	タテハチョウ	D23	ヒメジャノメ	2002	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	54
D	タテハチョウ	D24	ミドリヒョウモン	2004	△	△	△	○	△	×	×	×	×	×	×	55
D	タテハチョウ	D25	メスグロヒョウモン	2003	△	○	○	△	△	×	△	△	×	△	△	56
D	タテハチョウ	D26	ルリタテハ	1989	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	57
E	セセリチョウ	E1	イチモンジセセリ	1990	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	58
E	セセリチョウ	E2	オオチャバネセセリ	1992	○	×	△	×	△	×	×	△	△	△	△	59
E	セセリチョウ	E3	キマダラセセリ	2002	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	60
E	セセリチョウ	E4	ギンイチモンジセセリ	2004	○	○	△	○	○	○	○	△	△	○	○	61
E	セセリチョウ	E5	コチャバネセセリ	2004	○	△	○	○	△	○	△	○	○	○	○	62
E	セセリチョウ	E6	ダイミョウセセリ	1989	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	63
E	セセリチョウ	E7	チャバネセセリ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	64
E	セセリチョウ	E8	ミヤマチャバネセセリ	2004	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	65

記録者・
参考文献

- ・岡発戸都部の谷津のチョウ記録集: 田島友昭
- ・岡発戸都部の谷津の生き物通信: 青木直芳・田島友昭 岡発戸都部の谷津を愛する会
- ・我孫子市の昆虫: 岡発戸都部の谷津を愛する会
- ・谷津のチョウ類多様性ガイド: 青木直芳・田島友昭



最初へ



目次へ



次へ

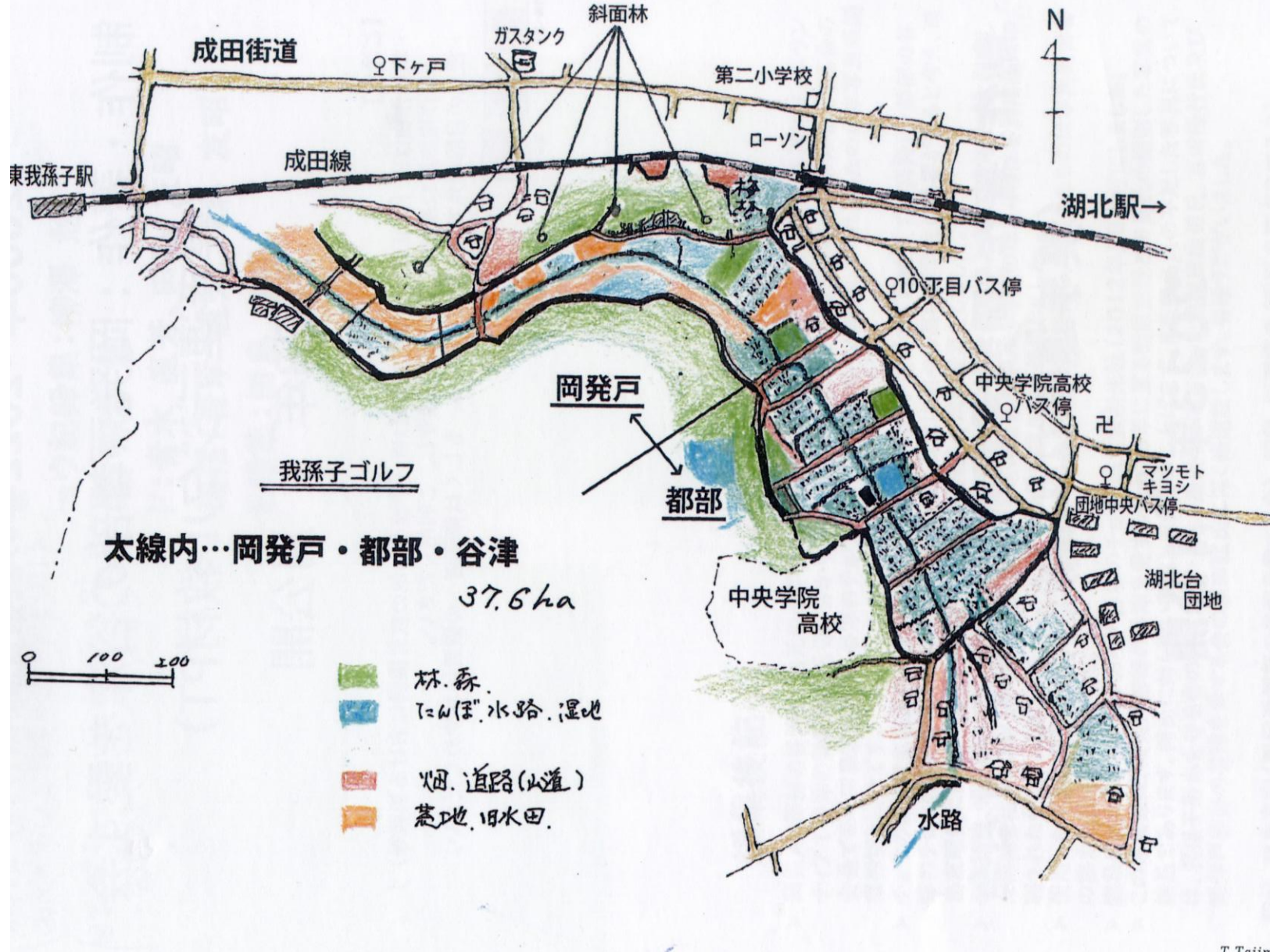


前へ



最後へ

岡発戸・都部の谷津



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

参考文献等

岡発戸・都部谷津のチョウ写真集は、小学校等の写真教材に提供することを目指しています。

近年、学校や図書館より地域に目指した資料が要望され、岡発戸・都部の谷津を愛する会会長の田島友昭氏の資料と写真を基にこの写真集を纏めました。不足した写真につきましては、我孫子野鳥を守る会のデータベースより池田日出男氏、吉田隆行氏と岡発戸・都部を愛する会の須田猛氏の写真提供を受けました。

参考文献

日本産蝶類標準図鑑 白水隆 学研教育出版、日本のチョウ 久保田修 学研教育出版、

フィールドガイド 日本のチョウ 誠文堂新光社(2012年)

千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)、ウィキペディア

プテロンワールド<https://www.pteron-world.com/topics/classfication/hesperidae/hesperiidae.html>

我孫子市・柏市・野田市の記録

- ・1950年代から野田市のチョウ記録集:柳澤 勉
- ・柏市近郊のチョウ採集記録集:柳澤 勉
- ・谷津のチョウ類多様性ガイド:青木 直芳、田島 友昭
- ・岡発戸・都部谷津の生き物通信:青木 直芳、田島 友昭
- ・岡発戸・都部谷津のチョウ記録集:田島 友昭



最初へ



目次へ



次へ



前へ



最後へ

編集後記

- 岡発戸・都部の谷津は、地元の小学生や市民が良く訪れ自然観察を楽しんでいる所です。ボランティアで谷津の動植物を親切に分かり易く紹介して下さっている岡発戸・都部の谷津を愛する会の会長である田島友昭氏が、谷津のチョウが減っているのですよと紹介してくれましたのが本写真集編集の切っ掛けです。
- チョウの減少は生態系のバランスが崩れている可能性が高いので現時点での岡発戸・都部の谷津のチョウの実態を多くの人に知って貰う、特に昆虫に関心の高い小学生に必要があると考え、田島友昭氏に岡発戸・都部の谷津のチョウの写真集作成の提案をしました。
- その結果、田島友昭氏より、岡発戸・都部の谷津を愛する会が2000年より2022年までに観察した記録と種毎のコメントの提供を頂き、それを基に編集しました。写真のほとんどは印画紙に印刷されたもので、これをスキャンしデジタル画像に置き換え使用しました。
- 使用した写真は岡発戸・都部の谷津で撮影したものを優先的に採用し、不足したものは写真提供者の協力を得て掲載しました。
- この写真集は、岡発戸・都部の谷津を愛する会の23年に亘る観察記録と田島氏の撮影した写真の成果であります。同氏に対し深い敬意と感謝を申し上げます。また田島氏の不足した写真については、我孫子野鳥を守る会のデータベースより提供をして下さった池田日出男氏、吉田隆行氏及び岡発戸・都部の谷津を愛する会の須田猛氏に深く感謝致します。有難うございました。
- 発行にあたり柳澤勉氏、柄澤保彦氏、両氏の多くのご助言に感謝申し上げます。

編集 間野吉幸（美しい手賀沼を愛する市民の連合会）



最初へ



目次へ



次へ



前へ

岡発戸・都部谷津のチョウ写真集

2000年～2022年の観察記録

制作・著作：岡発戸・都部の谷津を愛する会

写真・監修：田島 友昭

編集：間野 吉幸

(美手連デジタル教材PT)

2024年3月公開

【ご注意】

- ・本著作物は、「改正著作権法第35条第1項（学校その他の教育機関における複製等）」「著作権法第32条1項（引用）」を遵守し、ご利用ください。
- ・授業の目的以外での複製などの行為、もしくは第三者への譲渡はおやめください。



表紙へ戻る



目次へ



前頁へ

主な種の補足説明

ジャノメチョウ (D16)

野田市、柏市では1970代～2015年では普通に見られた。2015年から減少傾向にある。

アサギマダラ (D4)

東葛地区では年に1回程度確認された。野田市では2009年10月に10匹以上が確認された。台風などの風に乗ったと思われる。迷チョウ。

モンキアゲハ (A8)

なかなか確認されない。2021.9.24岡発戸都部の谷津で確認。この記録2003.8.26野田市以来の記録である。

アオタテハモドキ (D1)

沖縄地方で確認されるが、最近温暖化の影響で、九州でも確認されている。この記録は台風などの風に乗って谷津に入ったか、又は飼育をされたものが逃げ出して谷津に入ったか不明である。

元のページにもどる時は、もどりたいチョウの名前をクリックください。元のページにもどります。